

凡例

一 此書ハ逐條刑法ノ義理ヲ解釋スルモノナリ曩ニ治罪法
釋義ノ著アリト雖モ未ダ其根本タル刑法ノ釋義ナシ余
カ尤モ遺憾トスル所ナリ是レ則チ此著アル所以ナリ

一 此書每條ノ下ニ釋義ノ要目ヲ掲ケ番號ヲ付シ以テ搜索
ニ便ス若シ釋義簡單ニシテ盡キ之カ要目ヲ掲クルヲ要
セサルモノハ必スシモ之ヲ掲ケス

一 刑法治罪法ノ參看ヲ要スヘキ條ハ每條ノ下ニ於テ必ス
之ヲ掲ク

一 每條釋義ノ後佛朗西法ノ參看スヘキ條ノ全文ヲ譯載シ
再ヒ出ツルモノハ唯其條數ヲ掲ク是レ世ニ行ハル、佛

朗西五法ノ譯本誤謬多キヲ以テナリ

凡例

一 諸家ノ說此書說ノ所ト異ナルモノハ或ハ之ヲ本文ノ中ニ掲ケ或ハ之ヲ本文ノ後ニ掲ク定例アルニ非ス專ラ便宜ニ因ル

一 既ニ頒布セラレタル法律規則中刑法ニ關係アルモノハ適條ノ下ニ於テ之ヲ說ク但此書發兌ノ後ニ至リ頒布スルモノハ全備ノ後附録ヲ設ケ之ヲ說クヘシ

一 此書全備ノ後ハ完全ナル總目錄一本ヲ作り以テ搜索ニ便スヘシ

一 此書務メテ義理ノ解シ易ク曉リ易キヲ要ス故ニ俚言俗語ヲ用ヒ敢テ字句ヲ潤飾セズ讀者其レ之ヲ諒セヨ

明治十六年十月

著者 誌

刑法釋義卷之二

堀田正忠著

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

○本編總テ九章第一章ハ皇室ニ對スル罪ヲ定メ第二章ハ國事ニ關スル罪ヲ定メ第三章ハ靜謐ニ關スル罪ヲ定メ第四章ハ信用ヲ害スル罪ヲ定メ第五章ハ健康ヲ害スル罪ヲ定メ第六章ハ風俗ヲ害スル罪ヲ定メ第七章ハ死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪ヲ定メ第八章ハ商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ヲ定メ第九章ハ官吏瀆職ノ罪ヲ定ム

刑法中ノ區別ハ唯其順序ヲ正フシ體裁ヲ全フスルニ過キサルカ如シト雖モ一朝之ヲ欠クトキハ事理錯雜シテ

公益ニ關スル重罪輕罪

實際上ノ不便實ニ鮮少ナテ大然レトモ若シ其正鵠ヲ誤
ルトキハ亦頗ル混交紛雜ヲ來スノ憂アリ故ニ區別其正
鵠ヲ誤ラス配列其序ヲ全フシ事理ノ其中ニ秩然タルヲ
得ルハ編纂者ノ殊ニ難シトスル所ナリ

「フガイスタンエリ」氏刑法原論ニ依ルニ羅馬法ニ於テハ
罪ヲ公私ニ區別シ害ヲ人民全體ニ及ホスモノニシテ何
人ト雖モ之ヲ訴フルヲ得ルモノ之ヲ公罪ト爲シ被害者
一人ノ利益ニ關シ其者ノミ之カ懲罰ヲ要求スルヲ得ル
モノ之ヲ私罪ト爲シ又更ニ公罪ヲ分テ尋常ト非常ト主
ト主タラサルモノト爲シ刑ニ定限ナク裁判官其罪情ト
其身分トヲ審案シ或ハ之ヲ加ヘ或ハ之ヲ減スルヲ得ル
モノ之ヲ非常ノ罪ト爲シ死刑流刑鑛業ノ刑ニ該ルモノ

之ヲ主罪ト爲シタリキ罪ヲ公私ニ區別スルノ制タル歐
州各國多クハ之ヲ採用シタリ然レトモ公罪ト私罪トノ
區別ハ判然之ヲ劃定スル能ハス蓋シ公私ノ利益ヲ併セ
害スルモノアルヲ以テナリ故ニ學者輩往々完全ナル區別
ヲ設ケント欲シテ各自其信認スル所ノ說ヲ主唱セリ「ベ
ンザム」氏ハ罪ヲ別テ私罪自被害罪半公罪公罪ノ四ト爲
スヘシト說キ「シャル、リユカース」氏ハ人ニ對スルモノ物ニ
對スルモノ混同ノモノ、三ト爲スヘシト說キ「ロシー」氏
ハ身體ニ對スルモノ社會ニ對スルモノ私有物ニ對スル
モノ公有物ニ對スルモノ、四ト爲スヘシト說ケリ此等ノ
區別タル各其理ナキニ非スト雖モ而モ亦其弊アリ「ベン
ザム」氏ノ犯人自ラ害ヲ被フルモノヲ以テ自被害罪ト爲シ

一地方一會社一宗派又ハ共同ノ利益ヲ以テ會合セル一班ノ人ニ害ヲ被ラシムルモノヲ以テ半公罪ト爲シタルハ從フヘカラス何トナレハ獨リ犯人ノミニ害ヲ及ホスモノハ法律之ヲ罪トセス且半公罪ハ其性質ヲ異ニシ特立スヘキモノニ非サレハナリ「シャル、リュカース」氏ノ混同ノモノ、區別タル其中ニ國事ニ關スル罪強盜ノ罪放火ノ罪等全ク其性質ヲ異ニセル數多ノ罪種ヲ包括スヘキヲ以テ頗ル混交錯雜ヲ來スノ恐アリ「ロシ」氏ノ公有物ニ對スル罪及ヒ私有物ニ對スル罪ノ區別ハ其性質全ク相同シケレハ之ヲ以テ一ノ區別ト爲スニ足ラサルナリ」斯ノ如ク諸學者ノ主唱スル所亦完全無疵ナルモノニ非ス故ニ吾カ刑法ニ於テハ佛國其他諸國ノ法制ニ從ヒ罪

ヲ大別シテ公益ニ關スルモノト私益ニ關スルモノ即チ身體財産ニ對スルモノト二ト爲シ而シテ公益ニ關スル罪ハ編頭ニ列記セシ如ク之ヲ九種ニ小別シ且力メテ公私ノ性質ヲ正フシタリ然レトモ違警罪ハ其數少キノミナラス其性質タル一種特別ノモノナレハ之カ爲メ特ニ第四編ヲ設ケタリ

或曰ク違警罪ノ爲メ特ニ一編ヲ設クルヲ得ハ他ノ罪モ亦之ヲ二箇ニ別チ第二編ニ重罪ヲ定メ第三編ニ輕罪ヲ定ムル方簡便ナラント曰ク然ラス違警罪ハ其性質全ク他ノ罪ト異ナリテ彼此關係ヲ有スルコト殆ント稀ナリ故ニ之カ爲メ特ニ一編ヲ設クルヲ得ヘシト雖モ重罪輕罪ハ其情ニ輕重ノ差アルノミ其性質相同シキモノ殊ニ多

シ例へハ盜罪中強盜及ヒ兇器ヲ携帯スルノ竊盜ハ重罪ナルモ他ノ竊盜ハ輕罪ナリ又毆打創傷死ニ致シタルモノハ重罪ニシテ二十日間疾病休業ニ至ラシメタルモノハ輕罪ナルノ類是レナリ故ニ重罪輕罪ノ爲メ各一編ヲ設クルトキハ事重複シテ之ヲ搜索スル頗ル難カラシム故ニ此區別ヲ設ケサルナリ

第一章 皇室ニ對スル罪

○本條凡テ五條皇室ニ對スル罪ヲ定ム
吾カ刑法ハ佛法ト異ナリテ皇室ニ對スル罪ノ爲メ特ニ一章ヲ設ケ全ク之ヲ國事犯ト分テリ是レ國事ニ關スル罪ト皇室ニ對スル罪トハ其性質ヲ異ニスレハナリ
或問テ曰ク佛國刑法ニ於テハ第三編第一卷ハ國ノ安全

ニ對スル罪ト題シ其第一節ハ國ノ外部ノ安全ニ對スル重罪輕罪ト題シ其第二節ハ國ノ内部ノ安全ニ對スル重罪輕罪ト題シ而シテ第二節第一款ニ皇室ニ對スル罪ト國事ニ關スル罪トヲ定メタリ斯ク皇室ニ對スル罪ト國事ニ關スル罪トヲ同一ニ爲シタルモノハ蓋シ編纂ノ當時佛國ハ帝政タリシカ故ナラン實ニ君主親裁ノ國ニ於テハ皇室ニ對スル罪ト國事ニ關スル罪トヲ區別スルコト頗ル難シ然ルニ吾カ刑法ニ於テ皇室ニ對スル罪ト國事ニ關スル罪トヲ區別シタルハ抑吾カ國政體ノ然ラシムル所ナル乎將タ他ニ理由アリテ然ル乎吾カ國現時ノ政體ヨリ考フルトキハ皇室ニ對スル罪ト國事ニ關スル罪トヲ區別スルヲ得サルカ如シ如何ト曰ク皇室ニ對ス

ル罪ト國事ニ關スル罪トハ其性質全ク相異ナレリ抑國
 事ニ關スル罪トハ其目的タル政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潛竊
 シ朝憲ヲ紊亂スルニ在リ故ニ此目的ヲ以テ爲シタル罪
 ハ即チ國事犯ナリト雖モ此目的ナキトキハ如何ナル事
 ナ爲スモ之ヲ國事犯トスルヲ得ス左ニ例證ヲ掲ケ以テ
 此點ヲ辨明セン

例ハ要路ノ大臣政務ヲ治ムルニ方テハ政府ノ一部ヲ
 爲スト雖モ平常ハ唯尋常一私人ノミ政府ノ一部ヲ爲ス
 モノニ非ス之レト等ク亂民政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以
 テ要路ノ大臣ヲ謀殺スルトキハ其罪タル國事犯ナリト
 雖モ其目的ヲ以テセサルトキハ之ヲ國事犯トスルヲ得
 ス國事犯ト否トハ必ス犯人ノ目的如何ニ因リ之ヲ判定

セサルヘカテスレ然リ故ニ君主親裁ノ國ニ於テ皇室
 ニ對シ罪ヲ犯ス者アルモ其目的トスル所政治ニ關セザ
 ルトキハ之ヲ指シテ國事犯ト爲スヲ得ス即チ純然タル
 非國事犯ナリ由是觀之皇室ニ對スル罪ハ其性質タル國
 事犯ニ非サルナリ
 右ノ如ク皇室ニ對スル罪ハ其性質タル全ク國事犯ト相
 異レルカ故ニ之ト國事ニ關スル罪トハ之ヲ各別ニ區分
 シタリト雖モ而モ皇室ニ對スル罪ヲ以テ一私人ニ對ス
 ル罪ト同フセス之ヲ公益ニ關スル罪中ニ列シタリ是レ
 皇室ハ日本全國安危ノ係ル所ニシテ皇室安危ケレハ國亦
 安ク皇室危ケレハ國亦危シ要スルニ皇室ノ安危ハ日本
 全國ノ安危ナレハナリ

第一百十六條

天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

○本條ハ天皇三后皇太子ノ身體ニ對スル罪ヲ定ム
天皇トハ太上天皇ヲ包括シ三后トハ太皇太后皇太后皇后ヲイヒ皇太子トハ帝位ヲ踐ムヘキ皇嗣ヲイフ其身體ニ對スル罪ヲ犯シタル者ハ皆ナ之ヲ死刑ニ處スルモノナリ
本條ニ所謂危害ヲ加フルトハ身體ニ對スル罪ヲ總稱シタルモノト解セサルヘカラス草案第三百三十一條ニ天皇皇后及ヒ皇太子ノ身體ニ對シタル犯罪云々トアリシト全ク其意ヲ同フスルモノナリ故ニ刑法第三編第一章ニ

定メタル罪ハ勿論其他苟モ身體ニ危害ヲ及ホスヘキ罪ハ皆ナ本條ノ支配スル所ナリ
或問テ曰ク本條ニ所謂危害ヲ加ヘントシタルトノ語ハ如何ナル事ヲ指ス乎ト高木氏刑法義解曰ク總則ニ據レハ未遂ノ犯罪ハ既遂ノ罪ニ一等若クハ二等ヲ減スルヲ以テ例トス然ルニ此條危害ヲ加ヘントシタル者則チ未遂犯ニシテ既ニ危害ヲ加ヘタル者ト同ク之ヲ死刑ニ處スルハ何ソヤ蓋シ此條ノ罪ノ如キハ前既ニ云ヘル如ク實ニ重罪中ノ最モ重大ナル者ナレハ特ニ其罰ヲ嚴ニシ之ヲ他ノ罪ト別チタルニ外ナラサルナリト村田氏刑法註釋曰ク天皇三后皇太子ノ玉體ニ危害ヲ加ヘタル者ハ勿論之ヲ加ヘントシタル未遂犯罪ノ時ト雖モ死刑ニ處スト兩氏

ハ危害ヲ加ヘントシタルトノ一語ハ主トシテ未遂犯ヲ指スモノト解セルカ如シ小笠原氏註刑法曰ク危害ヲ加ヘントシタル者トハ陰謀豫備若クハ已ニ其事ヲ行ヒ未タ遂ケサル者ヲ云フト今甲乙二者ヲ對比センカ余ハ竊ニ小笠原氏ノ説ニ向テ賛成ヲ表セサルヲ得ス凡ソ事ヲ爲サントスルトハ試犯ノ謂ニシテ危害ヲ加ヘントシタルトハ即チ之ヲ指スモノナリ試犯トハ犯罪ノ決意外形ニ現ハレタルヨリ其罪ト爲ルヘキ事ヲ行フニ至ルマテヲ總稱スルモノナレハ既ニ事ヲ行ヒ犯人意外ノ障礙舛錯ニ因リ之ヲ遂ケサルモノモ決意ヲ爲シ事外形ニ現ハレタルモノモ皆チ其目的トスル事ヲ爲サントスルモノナレハ總テ之ヲ罪トセサルヲ得サルナリ或曰ク既遂犯ト

未遂犯トチ同一ノ刑ニ處スルノミナラス既遂犯ト決意トチ同一ノ刑ニ處スルハ罪刑其權衡ヲ保ツヘキノ原理ニ觸ル、實ニ太甚シカラスヤ故ニ危害ヲ加ヘントシタルトハ未遂犯ヲ指スモノト解スル方允當ナラント曰ク本條ハ尋常普通ノ道理ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ス何トナレハ當ニ決意ト既遂犯トチ同一ノ刑ニ處スルノミナラス身體ニ對スル罪中最モ輕微ナルモノモ最モ重大ナルモノモ皆チ之ヲ死刑ニ處スレハナリ故ニ本條ノ改正ナキ以上ハ唯正文ヲ解クニ止マラサルヘカラス或又問テ曰ク本條ハ意アリテ犯シタル者ノミヲ罰スルモノナル乎ト曰ク總則第七十七條ニ罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セストアリテ本條ニ之カ反對ヲ定メサ

凡ソ皇帝ニ對シ公然不敬ヲ爲シタル者ハ六月以上五年以下ノ禁錮及ヒ五百フランク以上一萬フランク以下ノ罰金ニ處セラレヘシ又犯人ニ其言渡サレタル禁錮ノ期限ト同一ノ期限間第四十二條ニ記載シタル權利ノ全部又ハ幾分ヲ停止スルヲ得ヘシ此期限ハ刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ起算ス

凡ソ皇族ニ對シ公然不敬ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ禁錮及ヒ百フランク以上五千フランク以下ノ罰金ニ處セラレヘシ [刑]九、四〇以下、

同第八十八條 「アツタ」ハ施行又ハ試犯ノミニ成ル [刑]二、八六以下、

同第八十九條 第八十六條及ヒ第八十七條ニ記載シ

タル重罪ヲ目的トスル陰謀ハ其施行ヲ豫備スルカ爲メ行ヒ又ハ行ヒ始メタル所爲ヲ伴フトキハ流刑ニ處セラレヘシ [刑]七、一七、一八、

若シ施行ヲ豫備スルカ爲メ既ニ行ヒ又ハ行ヒ始メタル所爲ヲ伴ハサルトキハ禁獄ノ刑ニ處セラレヘシ [刑]七、二〇、二八、以下、

事ヲ行フノ意ヲ決シ二人若クハ數人商議決定シタルトキハ陰謀ナリトス

第八十六條及ヒ第八十七條ニ記載シタル重罪ノ陰謀ヲ爲サント發言シ協議調ハサルトキハ此ノ發言ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ又犯人ニ第四十二條ニ定メタル權利ノ全部

又ハ幾分ヲ停止スルヲ得ヘシ [刑九、四〇] 以下、

同第九十條 一人ニテ第八十六條ニ記載シタル重罪

ヲ行ハント決意シ且施行ヲ豫備スルノ所爲ヲ他人

ノ助ケナク一人ニテ行ヒ又ハ行ヒ始メタルトキハ

禁獄ノ刑ニ處セラルヘシ [刑七、二〇、二八] 以下、

第百十七條

天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰

金ヲ附加ス [刑一、二〇]

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ 同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解 ○本條ハ過失罪ヲモ罰スルモノナル

平 ○登遐セラレタル天皇三后皇太子ニ對スル不

敬モ亦之ヲ罰スヘキ乎

三 第二項ノ解

〔一〕○本條ハ天皇三后皇太子及ヒ皇陵ニ對スル不敬ノ罪ヲ

定ム

〔二〕○第一項 本項ハ天皇三后皇太子ニ對スル不敬ノ罪ヲ

定ム

不敬ノ罪トハ何ソヤ曰ク不敬ノ語タル前條ニ所謂危害

ノ語ト同ク其包含スル所極メテ廣ク凡テ天皇三后皇太

子ニ對シ正ニ盡クスヘキノ敬禮ヲ闕キタル者ハ皆テ本

條ニ從ヒ之ヲ罰スヘキナリ

或曰ク不敬トハ罵詈誶毀侮辱ヲイフモノニシテ他ハ之

不敬

ヲ罰セサルナリト此說未タ盡サス不敬ハ多クハ罵詈誼
 毀侮辱ナリト雖モ決テ之ニ限レルニ非ス此他何事ニ限
 ラス不敬ノ所爲アレハ必ス本條ニ依リ之ヲ罰セサルヘ
 カラサルナリ然レトモ實際法ヲ執ル者ハ妄リニ不敬ノ
 罪ヲ摘發スヘカラス妄リニ之ヲ摘發スルトキハ却テ哀
 ムヘキノ結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ
 本條ニ於テハ不敬罪ヲ罰スルニ三月以上五年以下及セ
 二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ以テセリ是レ不敬罪中
 輕重ノ別アレハ實際寬嚴其宜キヲ得タル刑ヲ當行スル
 ヲ得セシメンカ爲メニシテ能ク其當ヲ得タルモノナリ
 ○或問テ曰ク本條ハ過失ニ出ツル者ヲモ亦之ヲ罰スル
 乎ト曰ク本條ニハ不敬ノ所爲アル者トアリテ其故意ニ

出テタルト否トチ區別セ大然レトモ過失ニ出テタルモ
 ノチモ罰スルノ明文ナキ以上ハ總則第七十七條ノ規則
 ニ從ヒ過失ノ所爲ハ之ヲ問フヲ得サルナリ
 ○或問テ曰ク本條ニ所謂不敬ノ中ニハ既ニ登遐セラレ
 タル天皇三后皇太子ニ對スル不敬ヲモ亦之ヲ包含スル
 乎ト曰ク此點ニ付テハ世間或ハ之ヲ包含セリトイヒ或
 ハ包含セスト唱ヘ甲乙其說ヲ異ニスト雖モ情本條ヲ案
 スルニ其所謂天皇三后皇太子ハ前條ニ所謂天皇三后皇
 太子ト同一ノ語ニシテ決テ其義ヲ異ニスルノ理ナキカ
 故ニ乙說ヲ以テ是トセサルヘカラス然レトモ既ニ登遐
 セラレタル天皇三后皇太子ニ對スル不敬ノ在世ノ天皇
 ニ對シ不敬タルトキハ則チ本條ニ依リ之ヲ罰スヘシ之

登遐ノ天皇三后
 皇太子ハ前條ニ
 所謂天皇三后皇
 太子ト同一ノ語
 ニシテ決テ其義
 ヲ異ニスルノ理
 ナキカ
 故ニ乙說ヲ以テ
 是トセサルヘカ
 ラス然レトモ既
 ニ登遐セラレタ
 ル天皇三后皇太
 子ニ對スル不敬
 ノ在世ノ天皇ニ
 對シ不敬タルト
 キハ則チ本條ニ
 依リ之ヲ罰スヘ
 シ之

ヲ罰スルハ他ナシ其所爲在世ノ天皇ニ對シ不敬タルカ故ナリ

〔三〕○第二項 本項ハ皇陵ニ對スル不敬ノ罪ヲ定ム

皇陵トハ天皇三后皇太子ノ墳墓ヲ包括スルモノニテ皇陵ニ對スル不敬ノ所爲トハ獨リ之ヲ發掘スルノミチイフニ非ス之ヲ汚穢シ之ヲ毀損スルノ類亦然リトス

○佛刑法第八十六條 前條ニ全文ヲ掲ク

第一百十八條

皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス 〔刑一三一〕

○本條ハ皇族ノ身體ニ對スル罪ヲ定ム
天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ之ヲ加ヘントシ

タル者ハ死刑ニ處スルト雖モ皇族ニ付テハ一ノ區別ヲ設ケ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ之ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリ
本條ニ於テ危害ヲ加ヘタル者ト之ヲ加ヘントシタル者トノ刑ヲ異ニシタルハ稍其理ニ適スルモノナリ然レトモ之カ爲メ益他ノ其理ニ戻レルチ明カニシタルカ如シ何トナレハ身體ニ對スル罪中最モ重キモノ、未遂犯ト最モ輕キモノ、既遂犯トチ比照セハ輕キ罪ノ既遂犯ノ方其罪惡輕シトセサルヘカラス然ルニ其刑ニ至テハ輕キ罪ノ方却テ重ク全ク其順序ヲ失セラルチ表明スレハナリ故ニ本條モ亦第一百十六條ト共ニ改正アランコトヲ希望ス

○佛刑法第八十六條

全文ヲ掲クニ

第一百十九條

皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス^{刑一〇}

○本條ハ皇族ニ對スル不敬ノ罪ヲ定ム

皇族ニ對スルノ不敬ハ天皇三后皇太子ニ對スルノ不敬

ヨリモ其罪輕シ故ニ本條ニ二月以上四年以下ノ重禁錮

ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加スト定メタリ

○佛刑法第八十六條

全文ヲ掲クニ

第一百二十條

此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ此章ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ハ輕罪ノ刑ニ

處スルトキト雖モ仍ホ監視ニ付スル旨ヲ定ム

總則ニ依ルニ重罪ノ刑ニハ必ス監視ヲ附加シ輕罪ノ刑

ニハ本條別ニ記載アルニ非サレハ之ヲ附加セス今皇室

ニ對スル罪ハ其世安ヲ害スル尤モ太甚シキモノナレハ

其罪輕罪ノ刑ニ該當スル場合ト雖モ仍ホ犯人ヲ六月以

上二年以下ノ監視ニ付シ以テ其懲悔ノ實否ヲ試察シ傍

ヲ再犯ヲ豫防スルモノナリ

○佛刑法第八十六條

全文ヲ掲クニ

第二章 國事ニ關スル罪

○本章凡テ二節第一節ハ内亂ニ關スル罪ヲ定メ第二節

第一百十九條 第一百二十條 國事ニ關スル罪

ハ外患ニ關スル罪ヲ定ム

第一節 内亂ニ關スル罪

内亂ノ罪
ハ外患ニ關スル罪
ヲ定ム

○本節凡テ八條内亂ニ關スル罪ヲ定ム
内亂トハ邦國內部ノ安全ヲ擾亂スルノ謂ナリ百般ノ罪
一トシテ國安ニ關セサルモノナシト雖モ就中直接ニ邦
國ノ安危存亡ニ關シ社會ノ組織ニ害ヲ加フルモノ之ヲ
國事犯ト爲シ而シテ其内部ノ安全ニ關スルモノ之ヲ内
亂ノ罪ト爲シタルナリ

第二百一十一條

政府ヲ顛覆シ文ハ邦土ヲ潛竊シ其他朝憲ヲ紊亂スル
ヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ
處斷ス

- 一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス
- 二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者
ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
- 三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者
ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
- 四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役
ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處
ス

- 一 本條ノ解
 - 二 内亂者ノ刑ニ區別ヲ設ケタルノ理由
- (一)○本條ハ内亂ノ罪及ヒ之ニ適用スヘキ刑ノ區別ヲ定ム
本條ニ依ルニ内亂ノ罪ニ三種アリ曰ク政府ヲ顛覆スル

ノ目的ヲ以テ内亂ヲ起スモノ曰ク邦土ヲ潜竊スルノ目的ヲ以テ内亂ヲ起スモノ曰ク朝憲ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ内亂ヲ起スモノ是レナリ

政府ノ顛覆

邦土ノ潜竊

朝憲ノ紊亂

政府ヲ顛覆スルトハ現政府ヲ顛仆傾覆スルヲイフ即チ君主政府ヲ顛仆シテ立憲政体ト爲シ立憲政府ヲ傾覆シテ共知政治ト爲スノ類ハ勿論現政府ヲ顛覆シテ無政府ト爲スカ如キモ亦此中ニ包含スルモノナリ

邦土ヲ潜竊スルトハ沖繩縣ヲ侵奪シテ一小國ヲ建立セシトスルノ類ノ如ク國土ノ一部ヲ潜竊スルヲイフ朝憲ヲ紊亂スルトハ皇嗣ノ順序ヲ變更シ郡縣ノ制ヲ廢シテ封建ノ制ト爲シ或ハ期ニ先シテ國會ヲ開設セシトスルノ類ノ如キ總テ國憲ヲ紊亂スルヲイフ

本條ニハ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ潜竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者云々トアリ故ニ世間往々政府顛覆邦土潜竊朝憲紊亂ニ内亂タルモノト内亂タラサルモノトニアリト爲シ兵ヲ擧グルニ非サレハ之ヲ内亂トセスト解スル者アレトモ是レ淺膚ノ誤見ニシテ未タ文意ノ存スル所ヲ詳カニセサルニ坐スルノミ抑本條中内亂ノ語ハ主ニシテ政府顛覆邦土潜竊朝憲紊亂ノ三語ハ客タリ客格ヲ以テ主格ニ制限ヲ付スルコトアルモ主格ヲ以テ客格ニ制限ヲ付スルコトアルヘカテス故ニ本條ハ内亂ニ政府顛覆邦土潜竊朝憲紊亂ヲ目的トスルモノト否ラサルモノトニアリテ其本條ニ定メタル三者中ノ一ヲ目的トスルモノニ非サレハ本

條ニ依リ之ヲ罰セサル旨ヲ定メタルモノニシテ決テ政
 府顛覆邦土潜竊朝憲紊亂ニ内亂タルモノト否トノ二ア
 ルヲ示シタルモノニ非ス而シテ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潜
 竊シ朝憲ヲ紊亂スルノ事ヲ爲シタルトキハ必ス邦國內
 部ノ安全ヲ擾亂スルカ故ニ其事ノ何タルヲ問ハズ之ヲ
 内亂ト爲スヘシ故ニ内亂ヲ起シタル者アルトキハ直チ
 ニ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルモ政府ヲ顛覆シ邦土
 ヲ潜竊シ朝憲ヲ紊亂スルノ事ヲ爲シタル者アルトキハ
 則チ本條ニ依リ之ヲ罰スヘキナリ
 右ノ如シ本條ハ政府顛覆邦土潜竊朝憲紊亂ニ内亂タル
 モノト内亂カラサルモノトノ二アルヲ示シタルニ非ス
 而シテ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潜竊シ朝憲ヲ紊亂スルノ事

以上
 三箇ノ目的ヲ達シ
 以テ内亂ト爲スヘキナリ
 又内亂ト爲スヘキナリ
 又内亂ト爲スヘキナリ
 又内亂ト爲スヘキナリ

チ行ヒタルトキハ必ス内亂ナルカ故ニ或者ノ云ヘル如
 キ兵ヲ舉グルノミヲ以テ内亂ト爲スヘキナリト雖モ實
 際右三箇ノ目的ヲ達シシカ爲メニ行フ事ハ必スシモ暴
 舉ナルヘシ故ニ内亂ヲ起シタル者ノ八字ヲ解シテ暴舉
 ヲ爲シタル者ト爲スモ敢テ妨クアラサルヘシ
 【二】〇本條ニ依ルニ内亂ヲ起シタル者必スシモ之ヲ同刑ニ
 處セス細ニ其加功ノ度ヲ定メ刑ニ輕重ヲ設ケタリ
 總則ニ依ルニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルトキハ皆チ之
 ヲ正犯ト爲シ同一ノ刑ニ處ス故ニ一般ノ規則ニ依ルト
 キハ上首魁ヨリ下附和隨行者ニ至ルマテ兵器金穀ヲ資
 給シタル者ノ類ハ純然ナリ皆チ之ヲ正犯ト爲シ同一ノ刑ニ處セサルヘ
 カラス然レトモ國事犯人ハ概シテ其員數多ク且他ノ罪

ト異ナリテ各自罪ニ加功スルノ度ヲ異ニスル殊ニ著シキモノナリ故ニ本條特ニ詳細ナル區別ヲ設ケタリ

第一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス○首魁トハ内亂者ノ張本人チイフ西南ノ役ニ於テ西郷隆盛ノ如キ即チ是レナリ又教唆者トハ命令威權詐欺等ニ因リ人ヲシテ内亂ヲ起スノ意ヲ決セシメタル者チイフ而シテ首魁ハ其罪最モ重ク又教唆者ハ己レ自ラ手ヲ下サスト雖モ人ヲシテ罪ヲ犯スノ意ヲ決セシメ遂ニ罪ヲ犯サシメタルモノナレハ其罪惡敢テ首魁ニ讓ラス故ニ何レモ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

或問テ曰ク本條ニ所謂教唆者トハ首魁ヲ教唆シタル者ノミチイフ乎又ハ本條第二以下ノ者ヲ教唆シタル者ヲ

包含スル乎ト甲曰ク本條ニハ單ニ教唆者トアルカ故ニ首魁ヲ教唆シタル者ニ限ラサルカ如シト雖モ本條第二以下ノ者ヲ教唆シタル者モ亦之ヲ死刑ニ處スヘシトセハ教唆ヲ爲シタル者ノ刑教唆ヲ受ケ現ニ事ヲ行ヒタル者ノ刑ヨリモ重キニ至ルヘシ此ノ如キハ全ク刑ノ順序ヲ失スルモノナレハ首魁ヲ教唆シタル者ノミチ死刑ニ處シ他ノ教唆者ハ其教唆ヲ受ケタル者ノ刑ト同一ノ刑ニ處スヘシト乙曰ク本條ニハ單ニ教唆者トアレハ實際如何ナル不都合ヲ生出スルコトアルモ解釋上之チ首魁ノ教唆者ニ限レリトスルヲ得ス且首魁ヲ教唆セスト雖モ罪ヲ犯スニ必要ナル人ヲ教唆シ其罪ノ終成ヲ計カル者ハ其教唆ヲ受ケテ現ニ事ヲ行フ者ヨリモ概シテ其情

教唆者ハ
起スニ付キ其職務ヲ行ヒタルニ過キサルナリ故ニ實際
或ノ問ノ如キ場合ヲ生出スルコトナカルヘシト雖モ萬

重シトス若シ甲説ニ從ヒ教唆者ノ刑ト下手者ノ刑トナシテ同一ナラシムルトキハ諸般ノ職務ヲ行フ者數百人ヲ教唆シタル者ヲ處スルニ僅ニ重禁獄若シハ輕禁獄ノ刑ヲ以テセサルヘカラサルヘシ豈此ノ如キ理アラシヤ故ニ實際或ハ酷ニ失スルカ如キ結果ヲ生出スルコトアルヘキモ教唆者ハ總テ之ヲ死刑ニ處スルモノト解セサルヘカラスト余竊ニ思フニ實際首魁ト氣脈ヲ通セスシテ首魁ニ非サル者ヲ教唆スルコト殆ト之レナカルヘシ若シソレ本條第一若クハ第二ノ者ニシテ第二以下ノ者ヲ教唆スル如キハ之ヲ教唆者ト爲スヲ得ス即チ内亂ヲ起スニ付キ其職務ヲ行ヒタルニ過キサルナリ故ニ實際或ノ問ノ如キ場合ヲ生出スルコトナカルヘシト雖モ萬

一ニモ首魁ト氣脈ヲ通セス特立シテ第二以下ノ者ヲ教唆シタル者アラハ乙説ノ如ク處斷セサルヲ得サルヘシ

第二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者云々○群衆ノ指揮ヲ爲シタル者トハ己レ首魁ニ非スト雖モ一群一隊ノ長ト爲リ其進退行止ノ指揮ヲ與フル者例ヘハ西南ノ役ニ於テ桐野篠原ノ類ノ如キ是レナリ又其他樞要ナル職務ヲ爲シタル者トハ軍器機密ニ參與スル者ノ類總テ樞要ナル局部ニ當ル者トイフ猶ホ之ヲ西南ノ役ニ求メハ大山綱良ノ如キソレ然ラン歟此等ノ者ハ其罪惡輕カラスト雖モ畢竟唯首魁ニ從屬シ之ヲ輔翼シタルニ過キサレハ其犯罪ノ輕重ヲ量定シ重キ者ハ之ヲ無期流刑ニ處シ輕キ者ハ之ヲ有期流刑ニ處スヘシト

定メタリ

或問テ曰ク群衆ノ指揮ヲ爲シタルト否トノ區別ハ容易ニ之ヲ辨スヘシト雖モ職務ノ樞要ナルト否トハ之ヲ辨スルコト頗ル難シ抑何ニ基テ其分界ヲ定ムヘキ乎ト曰ク其事ノ樞要ナルト否トヲ審案スルノ外ナシ故ニ此點タル專ラ事實裁判官ノ判定ニ任セサルヘカラサルナリ

第三 兵器金穀ヲ資給シ其他諸般ノ職務ヲ爲シタル者云々○兵器金穀ヲ資給シタル者トハ躬自ラ衆ニ加ハラスト雖モ内亂ヲ起スニ必要ナル兵器金穀ヲ資給シタル者ナイフ通常從犯タルノ資格ヲ有スルモノナリ又諸般ノ職務ヲ爲シタル者トハ樞要ニ非サル職務ヲ執行シタル者ナイフ其職務ノ樞要ナルト否トハ前既ニ開陳セシ

答不問
答不問

如ク專ラ裁判官ノ見ル所ニ委セサルヘカラサルナリ

或問テ曰ク兵器金穀ニ非サルモノ彈藥船舶其他軍備ノ物品ヲ資給シタル者ハ如何ト曰ク陸軍刑法第五十條及ヒ海軍刑法第五十六條ニハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者トアリト雖モ本條ニハ唯兵器金穀トアリ故ニ其他ノ物品ヲ資給シタル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルカ如シ然レトモ本條ニ兵器金穀ト書シタルハ唯其尤モ較著ナル例体ヲ示シタルノミ決テ制限ヲ設ケタルモノニ非ス故ニ其他ノ物品ヲ資給シタル者モ亦本條ニ依リ之ヲ罰セサルヘカラス若シ然ラスシテ本案ニ依ルヘカラストセハ總則ニ從ヒ本刑ヨリ一等ヲ減シタルノ刑ヲ以テ罰セサルヘカラサルニ至ラン

兵器金穀等ヲ資給シタル者ハ一ノ從犯ナリ故ニ其情輕シ又諸般ノ職務ヲ行フト雖モ其事樞要ナラサルモノハ其情亦從テ輕シ而シテ此第三ノ者ノ中ニハ自ラ其情狀ニ輕重ノ別アレハ其情重キ者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處スヘシト定メタリ

第四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者云々○教唆ニ乘シテ附和隨行シタル者トハ教唆煽動ニ依リ附和雷同シ徒ラニ隨行スル者チイフ又指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トハ或ハ銃劍ヲ執リ事ニ戰鬪ニ從ヒ或ハ糧仗運輸ノ役ニ供シタル者ノ類チイフ此等ノ者ハ其情殊ニ輕シ故ニ僅ニ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルニ止ムルモノナリ

○佛刑法第八十七條千八百五十二年 政府ヲ顛覆シ若

クハ之ヲ變更シ皇嗣ヲ變更シ又ハ國民若クハ住民ヲシテ帝權ニ對シ兵ヲ舉ケシムルヲ以テ目的トスル所ノ「アッタノタ」義前條ニ見ユハ幽閉スヘキ流刑ヲ以テ罰セラルヘシ千八百五十六年六月

第二百二十二條

内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

○本條ハ豫備ノ所爲ニシテ内亂ト同ク論スヘキモノヲ定ム

兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫奪掠取シタル者

ハ其所爲豫備ニ過キスト雖モ其兇暴ノ甚シキ尋常殺人盜偷等ノ豫備ト同シカラズ況ヤ其事タル内亂着手ノ第一初步ニシテ未タ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潜竊シ朝權ヲ紊亂スルノ事ヲ爲サスト雖モ業ニ既ニ邦國內部ノ安全ヲ擾亂シタルモノナレハ本條特ニ之ヲ掲ケ既ニ内亂ヲ起シタル者ト同一ノ刑ニ處スヘシト定メタリ

本條ニ所謂物品ハ其官有タルト私有タルトテ問ハス官府若シハ農商ノ倉庫ヲ破リ其貯藏ノ金穀ヲ劫奪スル如キ皆ナ是レナリ

○佛刑法第九十六條 凡ソ公ケノ土地、財産、金額、城寨、都府、陣營、倉庫、武庫、港口、船舶ヲ劫奪センカ爲メ又ハ公ケノ財産或ハ人民一般ノ財産ヲ掠奪シ或ハ之ヲ分

配センカ爲メ又ハ此重罪ヲ行フ者ヲ取押フル公力ヲ襲撃シ或ハ之ニ抗拒スヘキ爲メ兵器ヲ携ヘタル群衆ノ首魁ト爲リ又ハ其群衆中ニ於テ或ル職務ヲ行ヒ又ハ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處セラルヘシ

此群衆ヲ募聚スルノ指揮ヲ爲シ又ハ其群衆ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ其群衆ヲ編成シ或ハ編成セシメ又ハ故ラニ其群衆ニ兵器彈藥其他犯罪ノ器具ヲ供給シ又ハ食料ヲ給與シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其群衆ヲ指揮スル者ト通問シタル者ハ死刑ニ處セラ

ルヘシ刑七、一、二、三、六、九、二、二、六、五、三、一、三、四、四〇以下、民二、三、

第二百二十三條

政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵

ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ
下手者ヲ死刑ニ處ス

修約
大臣
ハス
ト

○本條ハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ノ罪ヲ定ム
政府ヲ變亂スルトハ政府ヲ顛覆スルト自ラ別アリ政府ヲ顛覆スルトハ現政府全體ヲ覆スナイフ之ヲ變亂スルトハ斯々ノ處置アルハ誰某ノ專斷橫制ニ出ツ故ニ之ヲ驅除シ以テ施政ノ方向ヲ一變セシメントスルノ類ノ如ク全政府ヲ顛覆スルニ非サルモノナイフ

政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者トハ要路ノ大臣ヲ謀殺シタルノ類ノ如ク犯人ニ於テ之ヲ殺害スルトキハ政府ヲ變亂スルヲ得ヘシト思料シタル人ヲ

謀殺シタル者ナイフ島田一郎カ紀尾井坂頭ニ大久保參議ヲ殺害シタルノ類ハ本條ノ適例ナリ

高木氏刑法義解曰ク例ヘハ己レ政府ヲ變亂セントスルヲ知ル者アリ其告發セシトキ懼レテ之ヲ謀殺スル者ノ如キ又此條ニ依ル可キナリト豈其レ然ラシヤ抑政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタルトハ右ニ陳ヘタル如ク犯人ニ於テ之ヲ謀殺スルトキハ政府ヲ變亂スルヲ得ヘシト思料シタル人ヲ謀殺シタルヲ以テ其陰謀ヲ告發セントスル者ヲ殺害スル如キハ是レ政府ヲ變亂センカ爲メニ非ス政府ヲ變亂スルノ罪ヲ容易ナラシメ若クハ其罰ヲ免カレンカ爲メナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ第二百九十二條ニ依リ處斷スヘク本條ニ依リ處斷ス

へカラサルナリ

右政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク之ヲ論ス故ニ一名若クハ數名ニテ人ヲ暗殺シタルトキト雖モ仍ホ本條ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ

或曰ク本條ニ教唆者下手者ヲ死刑ニ處ストアリ此ニ下手者ノコトヲ特書シタルハ其故アリト雖モ教唆者ハ既ニ第二百一十一條ニ於テ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタルカ故ニ此ニ之ヲ特書シタルハ無益ノ重複ナラント曰ク否ナ内亂ヲ起スト政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺スルトハ自ラ異ナレリ人ヲ謀殺スル場合ニ於テハ現ニ手ヲ下ス者ト教唆者トノ二アルノミ首魁モ教唆者ニ

非カレハ必ス下手者ナリ故ニ此ニ正犯タルヘキ下手者及ヒ教唆者ノ刑ヲ特定シタルハ敢テ無益ノ重複ニ非サルナリ

或問テ曰ク然ラハ本條ニ所謂下手者ノ中ニハ總則ニ所謂正犯ヲ悉ク包含スヘキ乎ト曰ク然リ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルトキハ皆ナ之ヲ下手者ト爲スヘク他ニ區別ヲ設クヘカラサルナリ

或又問テ曰ク然ラハ第二百一十一條ノ區別ハ本條ニ之ヲ適用スヘカラサル乎ト曰ク一概ニ之ヲ適用スヘカラストスルヲ得ス兵器等ヲ資給シタル者ノ如キハ仍ホ第二百一十一條ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラサルナリ或曰ク政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ之ヲ謀殺シタル者ニ其情

ヲ知テ兵器等ヲ資給シタル者ハ通常ノ從犯トシテ論ス
 へシ第二百二十一條第三ニ依リ之ヲ論スヘカラスト此說
 能ク其理ニ適スルモノナリ何トナレハ本條ノ罪ハ其目
 的政府ヲ變亂スルニ在ルカ故ニ之ヲ内亂ト同ク論スル
 モ其事タル全ク尋常ノ謀殺ナレハ其從犯ハ通常ノ規則
 ニ從ヒ之ヲ罰スル方允當ナレハナリ然レトモ本條ニ内
 亂ト同ク論スルトアリテ而シテ第二百二十一條ニ定メタ
 ル刑ハ通常從犯ノ刑ヨリモ輕キカ故ニ今日ニ在テハ必
 ス第二百二十一條ニ依リ處斷セサルヘカラサルナリ

第二百二十四條

前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

○本條ハ前三條ノ罪ハ未遂犯ト雖モ仍ホ本刑ヲ科スヘ
 キ旨ヲ定ム

通常未遂犯ハ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スト雖モ前
 三條ノ罪ハ其未遂犯ヲ本刑ニ處ス是レ内亂ノ罪ハ其一
 國ノ安全ヲ擾亂スルカ故ニ罰スルモノナリ而シテ前三
 條ノ罪ハ未タ其事ヲ遂ケスト雖モ既ニ罪ノ施行ニ着手
 シタル以上ハ其國安ヲ擾亂スル大ナレハナリ
 或曰ク内亂ノ罪ハ未遂犯ノトキニ於テ之ヲ罰スヘキモ
 既ニ遂ケタルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス故ニ特ニ本條ノ
 規則ヲ設ケタルナリト余曰ク然ラス内亂ノ罪ハ必スシ
 モ既遂犯ヲ罰スルヲ得サルモノニ非ス例ヘハ第二百二十
 一條ニ所謂内亂ノ罪ハ人既ニ内亂ヲ起シタルトキハ則
 チ既遂犯ナリ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潛竊シ朝憲ヲ紊亂シ

内亂ノ罪ハ既ニ遂ケタルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス
 既ニ遂ケタルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス
 既ニ遂ケタルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス

當レリ

タルトキ始メテ既遂犯ナルニ非ス又第二百二十二條ノ罪ハ兵器金穀等ヲ劫奪シタルトキ既遂犯ニシテ第二百二十三條ノ罪ハ其目的トスル人ヲ謀殺シタルトキ既遂犯ナリ此ノ如ク犯人其罪ヲ遂クルモ政府ニ之ヲ罰スルノ權ナキモノニ非ス故ニ余ハ本條ノ設ケアルハ前三條ノ罪ハ未タ之ヲ遂ケスト雖モ其國安ヲ擾亂スル大ナルカ故ナリトス

○佛刑法第八十八條第百十六條ニ全文ヲ掲リ

第二百二十五條

兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス 〔刑一〕

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解 ○陰謀ノ罪ハ二人以上商議決定シタル場合ニ非サレハ成立セサル乎

〔一〕○本條ハ内亂ノ豫備陰謀ハ之ヲ罰スヘキコト及ヒ其刑ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ内亂豫備ノ罪ヲ定ム

兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ未タ其施行ニ着手セスト雖モ既ニ國安ヲ擾亂スルモノナリ故ニ通常ノ場合ト異ナリテ之ヲ不問

ニ付セズ第二百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減シタルノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシト定メタリ

其他内亂ノ豫備ヲ爲シタルノ一語包含スル所極メテ廣シ總テ内亂罪ヲ容易ナラシメンカ爲メ其本體ニ非サル事ヲ行ヒタルトキハ則チ内亂ノ豫備ヲ爲シタルモノトシテ本條ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ例ヘハ兵器金穀ヲ劫奪センカ爲メ之ヲ藏スル家ニ押入リタルコト要路ノ大臣ヲ謀殺センカ爲メ便宜ノ地ニ其人ヲ要スルコト等ハ勿論何事ニ限ラス施行前之ヲ豫備スヘキ所爲ヲ行ヒタル者ハ皆ナ之ヲ罰スヘキナリ

豫備ト施行トノ區別ハ實際之ヲ判別スルコト容易ノ業ニ非ス其分界ノ如キハ曩ニ未遂犯罪ノ章ニ於テ之ヲ詳

説シタルヲ以テ茲ニ複説ノ勞ヲ取ラス

〔三〕〇第二項 本項ハ内亂陰謀ノ罪ヲ定ム

尋常陰謀ハ法律之ヲ問ハスト雖モ内亂ノ罪ハ之ヲ陰謀シタルノミニテ既ニ國安ヲ擾亂ス故ニ各二等ヲ減シテ之ヲ罰スヘシト定メタリ

○或問テ曰ク陰謀トハ佛刑法第八十九條ニ定メタル如ク二人以上内亂ヲ起サント商議決定シタルチイフ乎ト曰ク此點ハ頗ル重要ナレハ左ニ之ヲ詳論スヘシ

陰謀ノ語ハ之ヲ二様ニ解スルチ得ヘシ甲曰ク謀トハ謀議ノ謀ト同ク人ニ謀ルチイフ故ニ必ス二人以上アルチ要スト乙曰ク謀トハ謀殺ノ謀ト同ク心ニ謀ルチイフ故ニ必スシモ二人以上アルチ要セスト實ニ謀ノ字義タル

陰謀ノ解

甲曰ク謀トハ謀議ノ謀ト同ク人ニ謀ルチイフ故ニ必ス二人以上アルチ要スト乙曰ク謀トハ謀殺ノ謀ト同ク心ニ謀ルチイフ故ニ必スシモ二人以上アルチ要セスト

陰謀ノ語ハ之ヲ二様ニ解スルチ得ヘシ甲曰ク謀トハ謀議ノ謀ト同ク人ニ謀ルチイフ故ニ必ス二人以上アルチ要スト乙曰ク謀トハ謀殺ノ謀ト同ク心ニ謀ルチイフ故ニ必スシモ二人以上アルチ要セスト

或ハ二人以上對議スルコトヲ示シ或ハ心中ニ謀慮スル
 コトヲ示スカ故ニ單ニ字義ニ因テ此點ヲ決スルヲ得ス
 竊ニ刑法草案ヲ案スルニ其第四百十條ニ二人以上内亂
 ノ陰謀ヲ協議決定シタル者ハ第三百三十四條第三百十五
 條第三百三十六條ノ刑ニ照シ各三等ヲ減ス其陰謀協議セ
 スト雖モ發言ヲ爲シタル者ハ各四等ヲ減ストアリキ然
 ルニ此區別ヲ廢シタルハ蓋シ之ヲ存スルトキハ實際其
 弊アリト爲シタルニ因リシナラン是レ二人以上協議決
 定シタルノ語ヲ削除シタルヲ以テ明カナリ故ニ本條ニ
 ○所謂陰謀トハ乙說ノ如ク陰ニ之ヲ心ニ謀ルモノ即チ第

百十一條ニ所謂罪ヲ犯サンコトヲ謀リタルモノト解セサ
 ルヘカラス然ラサレハ實際甚キ不都合ヲ惹起スルコト

アルヘシ乃チ第二百二十三條ノ罪ノ如キハ單身之ヲ行フ
 チ得ルカ故ニ一人ニテ陰ニ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以
 テ人ヲ謀殺センコトヲ謀リタルトキハ到底之ヲ罰スル
 チ得サルニ至ルヘシ立法官ニ於テ草案ニ設ケタリシ區
 別ヲ廢シタルハ蓋シ亦此ノ如キ者ヲ罰スルヲ得サルノ
 恐アリシカ故ナラン

○佛刑法第八十九條 全文ヲ掲ケルニ

第二百二十六條

内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサ
 ル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上
 三年以下ノ監視ニ付ス [刑]八五

一 本條ノ解

二 本條ノ自首ハ既發未發ヲ問ハサル乎
 三 官ニ自首セスト雖モ眞心悔悟ノ情ニ因リ其事ヲ
 停止シタル者ハ如何

〔一〕〇本條ハ内亂ノ陰謀又ハ豫備ヲ爲シタル者ノ自首例ヲ
 定ム

通常自首ヲ爲シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減スト雖モ内亂
 ノ陰謀又ハ豫備ヲ爲シタル者其未タ事ヲ行ハサルニ方
 テ官ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免シテ唯六月以上三年
 以下ノ監視ニ付スヘシト定メタリ此ノ如ク本條ニ自首
 ノ特例ヲ定メタルモノハ他ナシ内亂ノ陰謀豫備ハ前既
 ニ開陳セシ如ク進テ罪ノ施行ト爲ルヲ以テ之ヲ罰スト
 雖モ若シ其用ヲ爲スコトナカラシメハ法律之ヲ罰スル

ノ要ナシ故ニ一旦陰謀又ハ豫備ヲ爲スト雖モ眞心悔悟
 ノ情ニ因リ之ヲ官ニ自首スルトキハ其進テ罪ノ施行ト
 爲ルノ恐ナク將サニ生セントスルノ危害ハ之カ爲メ消
 滅セシメラレタリトイフヘシ且以テ内亂ヲ未然ニ防キ
 禍害ヲ未發ニ遏ムルノ功益ハ實ニ少小ナラサルモノア
 リ故ニ法律ハ自首者ニ免罪ヲ約シ力メテ自首ヲ獎勵セ
 サルヘカラス是レ本條ニ本刑ヲ免スルトアル所以ナリ
 然レトモ犯人ヲ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ以テ其
 起居動靜ヲ觀察ス是レ其罪ヲ自首シタルモ或ハ再ヒ之
 ヲ犯シ若クハ偽テ自首シ官ノ警戒稍緩ムヲ待テ事ヲ發
 セントスル者ナキヲ保セサレハナリ

或問テ曰ク本條ノ自首ハ事ノ既ニ發覺シタルト否ト

ヲ問ハサル乎ト高木氏刑法曰ク此條ノ自首ハ未タ其事
 ナ行ハサル前ニ於テスル以上ハ其事ノ發覺シタルト否
 トヲ問ハス全ク其主刑ヲ免シ唯六月以上三年以下ノ監
 視ニ付スルニ止マルナリト小笠原氏刑法ノ說ク所亦同
 シ然レトモ余思フニ本條ノ自首ト雖モ事發覺後ニ係ル
 トキハ其效ナカルヘシ抑第八十五條ニ所謂事未タ發覺
 セサル前トハ一切ノ自首ニ通シ用フヘキ規則ナリ若シ
 然ラスシテ本條ニ所謂自首トハ事發覺後ニ係ルモ仍ホ
 其效アリトセハ官ニ於テ既ニ内亂ノ陰謀者ヲ覺知シ之
 ナ逮捕スルノ處分ヲ爲シタル後犯人其逮捕ヲ免カル、
 ナ得サルカ爲メ官ニ自首シタル者ニモ亦此利益ヲ與ヘ
 サルヘカラサルニ至ラン豈此ノ如キ理アラシヤ且第百

然ラスシテ本條ニ所謂自首トハ事發覺後ニ係ルモ仍ホ其效アリトセハ官ニ於テ既ニ内亂ノ陰謀者ヲ覺知シ之ヲ逮捕スルノ處分ヲ爲シタル後犯人其逮捕ヲ免カル、

九十二條第二百二十六條第三百五十六條ニモ亦事未タ
 發覺セサル前ノ語ナシ今此語ナキカ爲メニ既發後ノ自
 首モ仍ホ其效アリトセハ實ニ名狀スヘカラサルノ不都
 合ヲ生スルアラシク其詳細ハ尙ホ各本條ニ就テ之ヲ論ス
 ヘシ

(三)○或問テ曰ク内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ其
 事ヲ行ハサル前ニ眞心悔悟シテ其意ヲ翻シ其事ヲ停止
 シタルトキハ如何ト曰ク犯人官ニ自首セサル以上ハ其
 刑ヲ免カル、ヲ得ス是レ法律ニ於テ本條ノ特例ヲ設ケ
 タル所以ハ其官ニ自首シテ先非ヲ悔悟シタルヲ表シ且
 全國ノ安寧ヲ擾亂シ百萬ノ生靈ヲシテ塗炭ニ陷ラシメ
 巨萬ノ國財ヲ徒費セシムルニ至ルノ大害ヲ未然ニ防キ

以テ國安ヲ維持スルノ大益ヲ社會ニ與フルカ故ナリ然ルニ先非ヲ悔悟スルモ官ニ自首セサル者ハ社會ニ大益ヲ與フルノ効ナシ唯其情憫諒スヘキアルノミ況ヤ自ラ非行ヲ止メタル者ハ其刑ヲ全免セラルヘシトセハ官ニ自首セサル者ハ無罪ト爲リ官ニ自首シタル者ハ却テ監視ニ付セラル、ノ不權衡ヲ生スヘシ故ニ官ニ自首セサル者ハ或ハ酌量減輕スヘキモ決テ其刑ヲ免フルヲ得サルナリ

○佛刑法第百八條 國ノ内部又ハ外部ノ安全ヲ害スル陰謀其他重罪ノ犯人其陰謀若シハ他ノ重罪ノ施行又ハ試犯前且未タ起訴アラサル前ニ政府又ハ行政官吏又ハ司法警察官吏ニ其陰謀若シハ他ノ重罪ト

其首犯從犯トテ申告シタル者又ハ起訴後ト雖モ其首犯從犯ヲ捕獲スルヲ得セシメタル者ハ其刑ヲ宥恕セラルヘシ

然レトモ其事ヲ申告シ又ハ捕獲ヲ助ケシ犯人ニハ畢生間又ハ定期間監視ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

〔刑一、四、四、四、五、四、九〕

第百二十七條

内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

○本條ハ内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ノ罪ヲ定ム

内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ躬親ラ

内亂ニ與ミセスト雖モ犯人ニ便益ヲ與ヘ多少之ヲ幫助シタルモノナレハ附和隨行シ若クハ雜役ニ供シタル者ト同ク二月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スヘシト定メタリ

本條ノ罪ハ集會所ヲ給與シテ利ヲ圖リタルト否トヲ問ハス又其事前ニ在ルト事後ニ在ルトヲ問ハス故ニ犯人ヲ隱匿シタルトキハ第一百五十一條ニ依リ之ヲ罰スヘキモ若シ之ヲ隱匿シタルニ非サルトキハ仍ホ本條ニ依リ之ヲ論セサルヘカラヌ
或問テ曰ク若シ一人ニテ内亂ヲ起スノ陰謀若クハ豫備ヲ爲シタル場合ニ於テ若シ其情ヲ知テ之ヲ止宿セシメタル者アルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク本條ニハ之カ明文ナシ故ニ第一百五十一條ニ依リ論スヘキモノハ格別他ハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ故ニ本條ハ宜ク之ヲ改メテ内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ邸宅ヲ給與シタル者云々トセラレシコトヲ希望ス

○佛刑法第九十九條 前數條ニ記載シタル群衆ノ目的及ヒ其性質ヲ知り脅迫ヲ受ケスシテ之ニ止宿所隱匿所又ハ集會所ヲ給與シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレヘシ 〔刑〕七、一五、一六、一九、二二以下、二八以下、三四、三六、四七、

第二百二十八條

内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○本條ハ内亂ニ乗シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル罪ヲ犯シタル者ノ處分法ヲ定ム

内亂ノ罪ハ數多ノ所爲ニ因リ成立スルモノニシテ豫メ之ヲ一定スルヲ得ス政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潛竊シ朝憲ヲ紊亂シ若クハ兵器彈藥等ヲ劫掠センカ爲メニ行ヒタル所爲ハ皆ナ内亂罪ノ一部ヲ爲スモノナリ然レトモ或ハ内亂ニ乗シテ其目的ニ關セサル罪ヲ犯ス者ナキヲ保セス例ヘハ私利ノ爲メ内亂ニ乗シテ人ノ財物ヲ強奪スル者又ハ私怨ノ爲メ内亂ニ乗シテ人ヲ謀殺スル者其他強姦放火ノ類其目的ニ關セス唯私情私利ノ爲メ藉テ之ヲ犯ストキハ其性質タル純粹ノ非國事犯ニシテ之ヲ國事犯トスルヲ得ス故ニ必スシモ非國事犯ヲ以テ論シ國事

犯ト數罪俱發シタルモノトシ重キニ從テ之ヲ處斷スヘシト定メタリ

第二節 外患ニ關スル罪

○本節凡テ七條外患ニ關スル罪ヲ定ム

外患ニ關スル罪トハ外國ニ與シテ本國若クハ同盟國ニ敵對シ若クハ之ニ附屬シテ敵國ニ助成スル等本國ノ患害ヲ生出スルノ罪ヲイフ

第二百二十九條

外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

○本條ハ外患ニ關スル三箇ノ罪ヲ定ム曰ク外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵シタル罪曰ク外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シタル罪曰ク本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル罪是レナリ

外國ニ與シテ本國ニ抗敵シタル者トハ外國ニ黨與シテ日本國ニ敵對スル者チイフ凡ソ人ハ其本國ニ對スルノ本分ヲ盡サ、ルヘカラス然ルニ之ヲ捨テ外國ニ黨與シ本國ニ敵對スル者ノ如キハ賣國ノ奸民宜ク之ヲ嚴罰セサルヘカラス是レ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタル所以ナリ

然レトモ此罪ノ成立スルニハ三箇ノ要件ヲ具備セサルヘカラス曰ク日本人民タルコト曰ク外國ニ黨與シタルコト曰ク日本國ニ抗敵シタルコト是レナリ故ニ犯人日本國民ニ非サルトキハ外國ニ與ミシテ日本國ニ抗敵シタルモ之ヲ罰スルヲ得ス又縱ヒ日本人日本國ニ抗敵シタルモ外國ニ與ミセズ唯外患ニ乘シタルニ過キサルトキハ此條ニ依リ罰スルヲ得ス又日本人外國ニ與ミシタリト雖モ本國ニ抗敵セサルトキハ此罪アリトスルヲ得サルナリ

或問テ曰ク本國ニ抗敵スルトハ如何ナルコトヲ指ス乎ト曰ク小笠原氏刑注法曰ク外國ニ與ミシ本國ニ抗敵スルトハ日本國ノ人民ニシテ日本國ニ背叛シテ外國ニ與ミシ干戈ヲ執テ以テ直接ニ日本國ニ抗敵シタル者チ云フト此説是ナリ何トナレハ直接ニ本國ニ敵對セスシテ間

接ニ之ニ敵對シタル者ハ即チ本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者トシテ之ヲ罰スヘケレハナリ

外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シタル者トハ例ヘハ日本國清國ト同盟シテ英國ト交戰中英國ニ與シテ清國ニ敵對シタル者チイフ同盟國トハ戰時ニ力ヲ協セ共ニ敵國ヲ攻撃シ若クハ其來襲ヲ防禦セソカ爲メ特ニ盟約連合シタル國チイヒ平時和親ヲ守ル條約國チイフモノニ非ス此ノ如ク特ニ盟約シテ力ヲ協セ共ニ敵國ニ當ル國ハ全ク其利害ヲ共ニシ恰モ一體ヲ爲スモノナレハ其同盟國ニ抗敵スルハ即チ其本國ニ抗敵スルニ異ナラス故ニ本條ニ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

此罪ハ日本人ナルコト外國ト交戰中ナルコト同盟國ナルコト之ニ抗敵シタルコトノ四箇ノ元素ヲ待テ成立ス

若シ其一ヲ闕クトキハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

或問テ曰ク本條以下ニ所謂交戰中トハ現ニ戰ヲ交ユル中即チ戰端ヲ開キタルヨリ其全局ヲ結フニ至ルマテチイフモノナル乎ト曰ク其字面上ヨリ解セハ則チ然ラン然リト雖モ亦高木氏ノ詳論シタル如ク往々其弊アリ故ニ交戰中トハ平時ニ對スル戰時ノ謂ニシテ一旦兩國ノ和議破レ戰時ノ宣告アリタル後ハ之ヲ交戰中トイフヘキナリ

刑法草案第百五十四條ニ曰ク未タ交戰ニ至ラヌト雖モ既ニ敵國ニ對シ戰書ヲ送ラントスル際ニ於テ前數條ノ罪ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依テ處斷スト立法官

交戰中トハ何

速ニ該條ヲ回復シ以テ此點ヲ明了ナラシメラレシコト
ヲ希望ス

其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者トハ躬親ヲ本
國若シハ同盟國ニ抗敵セスト雖モ叛心ヲ懷ヒテ敵兵ニ
附屬シ諸般ノ事務ヲ行フ者チイフ此等ノ者ハ前二箇ノ
者ニ比スレハ其罪惡稍小ナルニ似タリト雖モ其執ル所
ノ事務如何ニ依テハ直接ニ本國ニ抗敵スル者ト其罪惡
チ同フスルノミナラス亦或ハ之ヨリ一層太甚シキモノ
アリ敵兵ニ附屬シテ樞要ナル職務ヲ行ヒタル者ノ類是
レナリ故ニ此罪モ亦之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ
此罪ノ成立ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク日本人ナル
コト曰ク本國ニ背叛スルコト曰ク敵兵ニ附屬スルコト

是レナリ故ニ若シ此三條件中僅ニ其一ヲ闕クモ本條ノ
罪ヲ形成セサルナリ
或問テ曰ク「ボウソナド」兵刑法草案註解ニ然レトモ此規
則ノ適用甚タ博泛タルカ故ニ醫師若シハ看病夫トシテ
敵ノ病院又ハ病營ニ附屬シタル日本人ハ法律上明カニ
之ヲ例外トスルヲ要スルモノト信シタリ此例外ハ編纂
委員ノ批難ヲ受ケ遂ニ之ヲ削除シ唯後ノ參考ニ供スル
ノミヲ許サレタリ故ニ本案正文ニハ之ヲ記載セサルナ
リ然レトモ此事タル決テ遲疑スヘキモノニ非ス第一負
傷者ハ既ニ之ヲ敵視セス同類ノ扶助ヲ受ル權利アリト
視ルヘキコト人情ノ然ラシムル所確乎不拔ノ道理ナリ
第二敵ノ病院ニ附屬シタル本邦ノ醫師ハ日本人ノ爲メ

ニ大ニ裨益スルコトアルヘシ何トナレハ軍事病院ニ於
 テハ常ニ彼我兩軍ノ被傷者アルモノナレハ敵ノ醫師ハ
 彼ノ軍ノ傷者ト我カ軍ノ傷者ト共ニ受取りタルトキ
 我カ傷者ノ治療ヲ怠ルコトアルヘク且戰場ニ於テ我カ
 傷者ヲ遺棄スルノ恐アルヘケレハナリトアリ此說能ク
 其當ヲ得タルモノ、如シ然ルニ本條ニ此例外ヲ設ケサ
 リシハ法ノ闕典ナラント曰ク醫師及ヒ看病夫ノ爲メ特
 ニ明文ヲ掲クルハ可ナリト雖モ本項ニ所謂本國ニ背叛
 シノ一語ヲ玩味スルトキハ我カ負傷者ノ治療ヲ目的ト
 シテ醫師若クハ看病夫タル者ノ如キハ此條問フ所ニ非
 サルヲ知ルヘシ何トナレハ此ノ如キ者ハ本國ニ背叛シ
 タルモノニ非サレハナリ抑我カ負傷者ノ治療ヲ目的ト

スル者ハ之ヲ罰スルノ理ナシト雖モ然ラサル者ハ醫師
 看病夫ト雖モ之ヲ不問ニ付セサルヘケラサルノ理アル
 ニ非ス故ニ廣ク醫師等ノ爲メ例外法ヲ設ケサルモ敢テ
 不正ノ譏ヲ受クルコトナカルヘシ

○佛刑法第七十五條 凡ソ佛朗西人ニシテ佛朗西國ニ
 對シ兵器ヲ執リタル者ハ死刑ニ處セラルヘシ 〔刑〕七、

〔民〕三六、三、

第三百三十條

交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ本
 國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事
 ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑
 ニ處ス

○本條ハ交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタル者ノ罪及ヒ本國若クハ同盟國ノ都府城塞等ヲ敵國ニ交付シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ前條ト異ナリテ犯人本國ニ背叛シ敵兵ニ加入シタルニ非ス身本國ニ在リテ款ヲ敵國ニ通シタルモノナリ抑前條敵兵ニ加入スルカ如キ固ヨリ疾ムヘク且其害大ナリト雖モ其所爲全軍ノ勝敗ニ大關係ヲ有スルカ如キコト殆ト稀ナリ然レトモ本條ノ所爲ノ如キハ其運命ニ關スル敢テ鮮小ナリトセス之カ爲メニ敵兵ヲシテ本國ヲ蹂躪セシメ遂ニ國家ノ敗滅ヲ翹クニ至ルコトナシトイフヘカラス其罪惡前條ノ罪ヲ犯シタル者ヨリ重キコトアルモ決テ輕キコトナシ故ニ此等ノ者ヲ處ス

ルニ死刑ヲ以テセリ

或問テ曰ク若シ敵兵ヲ誘導シテ同盟國ノ管内ニ入ラシメタル者ハ如何スヘキ乎ト曰ク敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタル者ト之ヲ同盟國管内ニ入ラシメタル者トハ其罪過敢テ異ナラス然レトモ本條ニ明文ナキカ故ニ敵兵ニ附屬シタル場合ヲ除クノ外之ヲ罰スルヲ得ス因テ余ハ立法官ニ於テ速ニ此點ヲ補定セラレノコトヲ希望ス

○佛刑法第七十七條 國敵ヲシテ王國ノ地及ヒ其附屬

地ニ進入スルヲ容易ナラシメ又ハ國敵ニ佛朗西ニ屬スル都府城塞陳營港口倉庫武庫船舶ヲ交付シ又ハ敵ニ兵卒人數金銀食料兵器彈藥ノ資助ヲ供給シ

又ハ士官兵卒水夫其他ノ者ノ王及ヒ國ニ對スル忠節ヲ誘惑シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ佛朗西海陸軍ノ所領又ハ佛朗西ノ海陸軍ニ向ヒ敵兵ノ進撃ヲ助クヘキ爲メ事ヲ行ヒ又ハ國敵ト通問シタル者ハ同ク死刑ニ處セラルヘシ〔刑〕七、一、二、三六、七八以下、

第三百三十一條

本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス
敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕○本條ハ交戦ノ前後ヲ問ハス軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地等ヲ敵國ニ通知シタル者及ヒ敵國ノ間諜細作ヲ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ノ罪ヲ定ム

軍情トハ士氣ノ振否軍隊ノ敷置糧仗ノ充足缺乏等ノ類ヲイヒ機密トハ攻守進退ノ籌策ヲイフ
本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ハ日本人タル者決テ之ヲ敵

國ニ漏泄スヘカラス若シ之ヲ漏泄スルトキハ遂ニ我軍ノ敗衄ヲ來タスノ恐アリ又兵隊屯集ノ要地道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知スルトキハ彼ノ攻守ヲ容易ナラシムルノ憂アリ故ニ本條ニ此等ノ事ヲ行ヒタル者ハ無期流刑ニ處スヘシト定メタリ

本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期流刑ニ處シ之ヲ死刑ニ處セサルモノハ蓋シ躬自テ本國ニ抗敵シ或ハ本國ノ要地要具ヲ交付シタル者ニ比スレハ其情稍輕シト爲シタルニ因ルナラン然レトモ余竊ニ考フルニ本項ノ罪タル國家ノ安危ニ關係スル重大敢テ前二條ノ罪ニ讓ラス且其情亦大ニ疾ムヘキモノアレハ之ヲ死刑ニ處スル方允當ナラン

流
送

〔三〕○第二項 本項ハ敵國ノ間諜細作ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者ノ罪ヲ定ム

抑間諜ハ良將勝ヲ制スルノ要具ナリ故ニ嚴ニ之ヲ防カサルヘラス然ルニ日本人ニシテ之ヲ誘導隱匿シ其意ヲ達セシメ爲メニ全軍ノ敗衄ヲ釀成スル者ハ其情重ク其害大ナリ故ニ之ヲ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリ然レトモ本項ノ罪モ亦前項ノ罪ト同ク之ヲ死刑ニ處スル方蓋シ權衡ヲ失ハサルニ庶幾カラシム

○佛刑法第八十一條 凡ソ官吏及ヒ政府ノ委任ヲ受ケタル者其職務ニ因リ城寨武庫港口ノ圖面ヲ預カリ此等ノ圖面又ハ其一ヲ敵國又ハ敵國ノ者ニ交付シタル者ハ死刑ニ處セラレヘシ

若シ其圖面ヲ局外中立又ハ同盟ノ外國官吏ニ交付シタル者ハ禁獄ノ刑ニ處セラルヘシ〔刑七、二八、以下、三、四、三、六、四、七、〕

同第八十二條 前條ニ記載シタルヨリ以外ノ者賄賂

詐偽暴行ニ因リ其圖面ヲ得之ヲ敵國及ヒ外國ノ官吏ニ交付シタル者ハ前條ニ記シタル官吏又ハ委任ヲ受ケタル者ト同ク且同條ニ定メタル區別ニ從ヒ罰セラルヘシ

若シ其圖面不正ノ方法ヲ用ヒスシテ之ヲ交付シタル者ノ手ニ在リシトキハ第八十一條ニ定メタル第一ノ場合ニ於テハ流刑ニ處セラルヘシ〔刑七、一七、一八、〕

同條第二ノ場合ニ於テハ二年以上五年以下ノ禁錮

ニ處セラルヘシ

同第八十三條 何人ニ限ラス敵ノ間諜又ハ探偵ニ來リシ兵卒ナルコトヲ知テ之ヲ隱匿シ若クハ隱匿セシメタル者ハ死刑ニ處セラルヘシ〔刑七、一、二、六、三、〕

第三百三十二條

陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

○本條ハ陸海軍ヨリ物品ノ供給又ハ土工建築ヲ請負タル商工故ラニ其約定ニ違ヒ軍備ノ缺乏ヲ致シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ數箇ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

一 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケタルコト○若シ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケスシテ他ノ者ヨリ委任ヲ受ケタル者ハ此條ノ正面ニ當ラサルナリ

或問テ曰ク築工陸海軍ヨリ陣營屯所ノ建築ヲ請負ヒタリ然ルニ其配下ニ在テ工事ヲ爲ス者敵國ノ賂遺ヲ受ケテ故ラニ其約ニ違ヒタルトキハ如何ト曰ク此場合ニ於テ本人ハ陸海軍ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタル者ニ非ス故ニ本條ノ正面ニ當ラサルカ如シ

二 交戦ノ際敵國ト通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シタルコト○交戦ノ際トハ交戦中ト同ク戦時ノ謂ナリ今交戦ノ際ニ非ラサルカ又ハ敵國ニ通謀セス且其賂遺ヲ受ケサルトキハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

三 命令ニ違背シタルコト○命令ニ違背スルコトナク例ヘハ十日間ニ竣功スヘキモノヲ二十日ヲ要スト中立テ其約定ヲ結ヒタル者ノ如キハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

四 軍備ノ缺乏ヲ致シタルコト○故ラニ命令ニ違背シタリト雖モ爲メニ軍備ノ缺乏ヲ致サ、ルトキハ社會ニ危害ヲ加ヘス故ニ本條之ヲ罰セサルナリ

本條ノ罪ハ其利害ノ關スル所敢テ小ナラスト雖モ之ヲ前數條ノ罪ニ比較スルトキハ稍輕ク且其罪タル不行犯ナレハ之ヲ有期流刑ニ處スルニ止メタリ

第三百三十三條

外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス

其豫備ニ止マル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス〔刑〕一一一、

○本條ハ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ノ罪ヲ定ム
此罪ノ性質タル前數條ノ罪トハ自ラ異ナレリ
敵國同盟國及ヒ和親國ト否トヲ問ハス總テ外國ニ對シ
私ニ戰爭ノ端緒ヲ開キタル者ハ獨リ政府ノ大權ヲ蔑如
シ擅ニ干戈ヲ動カスノミナラス寇ヲ外國ニ結ヒ本國ノ
危難ヲ釀成スルノ恐アルカ故ニ既ニ其事ヲ行ヒ又ハ行
ヒ始メタル者ハ之ヲ有期流刑ニ處シ豫備ニ止マル者ハ
一等又ハ二等ヲ減スヘシト定メタリ

○佛刑法第八十四條 何人ニ限ラズ政府ノ許可セサル
敵對ノ所爲ヲ行ヒ本國ヲシ戰端ヲ開クニ至ラシム
ル者ハ追放ノ刑ニ處セラルヘシ若シ之カ爲メ戰端

ヲ開キタルトキハ流刑ニ處セラルヘシ 千八百五十八年六月八日
附ノ法

同第八十五條 何人ニ限ラズ政府ノ許可セサル所爲
ヲ行ヒ佛朝西人ヲシテ其復報ヲ受クルニ至ラシム
ル者ハ追放ノ刑ニ處セラルヘシ

第三百三十四條

外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其
布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ
處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス〔刑〕一三五、

○本條ハ局外中立ノ布告ニ違背シタル者ノ罪ヲ定ム
局外中立トハ甲乙兩國戰ヲ交ユルニ際リ何レノ國ニモ
左袒セス袖手戰局外ニ立テテ中正ヲ持スルヲイフ此ノ

如ク局外中立ヲ布告シタル場合ニ於テ之ニ違背スルト
 キハ其結局或ハ兵ヲ用ヒサルヲ得サルニ至ルコトナキ
 ニ非ス故ニ本條特ニ局外中立ノ布告ニ違背シタル者ノ
 罪ヲ定メ六月以上三年以下ノ輕禁錮及ヒ十圓以上百圓
 以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ
 或問テ曰ク局外中立ノ布告ニ違背スルトハ如何ナルコ
 トヲ行フチイフ乎ト曰ク局外中立ヲ破フルノ所爲ヲ豫
 定スルハ緊要ノコトナリト雖モ實際豫メ之ヲ一定スル
 ヲ得ス時ト場合トニ從ヒ或ハ異同アレハナリ然レトモ
 要スルニ局外中立ハ戰ヲ交ユル國ヲ助ケサルノ謂ナレ
 ハ軍用ニ供スヘキ物品ヲ不正ニ輸出スルカ如キ皆ナ之
 ヲ破フルモノトイフヘキナリ畢竟本條ノ罪ハ裁判官ニ
 於テ萬國公法ニ基キ且條理ニ照シテ處斷セサルヘカラ
 サルナリ

第三百三十五條

此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六
 月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ本章第一節及ヒ第二節ニ通シ用フヘキ規則ナ
 リ
 抑國事ニ關スル罪ハ直接ニ一國ノ安危ニ關スルモノナ
 レハ犯人ハ必ス監視ニ付シ以テ其懲悔ノ實否ヲ試察シ
 且其再犯ヲ豫防スルモノナリ
 本條輕罪ノ刑云々トアルハ重罪ノ刑ニハ法律上當然監
 視ノ附加スルアルカ故ナリ

○ 附言

著者曰ク本章ノ規則ハ陸海軍刑法ト大ニ相牽連ス故ニ茲ニ軍律ヲ説キ彼此並ヒ行ハレテ而モ相悖ラサル所以ヲ示サントス

陸軍刑法第二編第一章ハ反亂ノ罪ヲ定ム凡テ十六條第五十條乃至第五十二條ハ主トシテ禍亂ヲ釀成スルノ罪ヲ定メ第五十三條乃至第六十一條ハ内亂ト外患トヲ論セズ彼我相分レ敵ナル者生シタル後ノ罪ヲ定メ第六十二條以下ハ更ニ前數條ニ通スヘキ法ヲ定ム左ニ反亂罪ニ關スル法ヲ畧説スヘシ

第五十條ハ軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ禍亂ヲ釀成

スル者ノ罪ヲ定ム而シテ此條ニ於テハ刑法第二百一十一條ト異ナリテ政府ヲ顛覆シ邦土ヲ潛竊シ朝憲ヲ紊亂スルヲ以テ目的トスルヲ必要トセス既ニ黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者ハ其目的ノ如何ヲ問ハズ皆ナ之ヲ罰ス而シテ其刑ノ區別タル首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處シ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事ス諸般ノ職務ヲ司リ若クハ軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情輕ニキ者ハ附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス故ニ之ヲ刑法第二百一十一條ニ比スレハ其刑輕重地ヲ異ニス是レ他ナシ軍人ハ禍亂ヲ平定スルノ責アリ然ルニ

己レ禍亂ヲ醸成スルハ其職務ニ背戾シ軍隊ノ組織ヲ破壊スルモノニシテ而シテ其事ヲ起ス之ヲ常人ニ比スレハ遙ニ易ク之ヲ防ク從テ難ケレハナリ

第五十一條ハ刑法第百二十二條ト全ク其趣意ヲ同フス故ニ之ヲ説カス

第五十二條ハ未タ戦闘ニ至ラサル前官吏暴動ヲ鎮撫シントスルニ際リ其官吏ヲ殺死シタル者ノ罪ヲ定ム人ヲ殺スハ戦闘ノ性ナリ縱ヒ幾百人ヲ殺スモ之ヲ別罪トスルノ理ナシ然レトモ鎮撫ノ官吏ヲ殺スカ如キハ其情重ク且其害大ナレハ特ニ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第五十三條ハ内亂ト外患トニ論ナク彼我相分レタル

後軍人山川丘陵村落林樾工廠倉庫民屋等都テ直接ニ軍隊ニ影響ヲ及ホスモノ及ヒ陸軍部内ニ貯藏スル軍需ノ物品ヲ敵ニ付シタル者ノ罪ヲ定ム此等ノ所爲タル其害小ナラス故ニ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第五十四條ハ軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ其他軍機軍情ヲ漏洩シタル者ノ罪ヲ定ム其刑法第百三十一條ト異ナル所ハ本條ハ内亂外患ノ場合ニ通シ用フヘキト其罰死刑ナルトノ二點ナリ

第五十五條ハ軍人敵圍ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシテ黨ヲ爲ス者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ目的ヨリ之ヲ論スルトキハ未タ其事ヲ行

ハサルノ豫備陰謀ナリ然レトモ其結黨ノ害最モ大ナ
レハ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第五十六條ハ其所爲ノ何タルヲ問ハス軍人敵前ニ在
テ苟モ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ連絡集合ヲ妨クル
ニ足ルノ事ヲ行ヒタル者ノ罪ヲ定ム抑敵前ニ在テハ
士卒恟々亦他事ヲ顧ミス勝敗ノ數虛盈消積其間髮ヲ
容レヌ又事ノ軍氣ニ關シ易キ此時ヨリ甚シキハアラ
サルナリ故ニ敵前ニ在テ本條ノ罪ヲ犯ス者ハ之ヲ死
刑ニ處スヘシト定メタリ

第五十七條ハ軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ノ罪ヲ定ム
敵ノ爲メニ兵ヲ募ルハ反逆ノ尤モ著明ナルモノナリ
故ニ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第五十八條ハ軍人敵ヲ利スル爲メ官有ト民有トヲ問
ハス又特ニ軍隊ノ用ニ供セシカ爲メ設ケタルモノト
否トニ論ナシ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈
藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬥ノ用ニ供スヘキ道路橋
梁森林漁車電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シ
タル者ハ死刑ニ處スヘキ旨ヲ定ム

第五十九條ハ軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需
ノ物品ノ缺乏ヲ致シタル者ノ罪ヲ定ム
此罪タル其情稍輕キカ如シト雖モ其害敢テ小少ナラ
ズ且多クハ主管者ノ犯スモノナルカ故ニ之ヲ死刑ニ
處スヘシト定メタリ

第六十條ハ軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造

言飛語ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ之ヲ犯ス易ク而モ其害大ナリ故ニ事瑣細ニ屬セルカ如シト雖モ仍ホ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第六十一條ハ軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪シタル者並ニ敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ノ罪ヲ定ム

敵ノ間諜ヲ防クハ軍中警備ノ主眼タリ故ニ之ヲ誘導助成隱匿シタル者ハ死刑ニ處シ他二箇ノ罪ハ其害稍小ナリ故ニ敵ヲ利スルカ爲メニ犯シタルトキ初メテ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

第六十二條ハ前數條ニ定メタル罪ノ未遂犯及ヒ豫備ハ本刑ヨリ一等ヲ減シテ之ヲ罰シ其陰謀ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スル旨ヲ定ム

本條ト刑法第二百二十五條ト異ナル所二點アリ曰ク刑法ニ於テハ内亂ノ豫備陰謀ノミヲ罰スルモ本條ハ外患ニ關スル罪ノ豫備陰謀ヲモ罰ス曰ク刑法ニ於テハ内亂未遂犯ハ本刑ヲ科スト雖モ本條ニ於テハ本刑ニ一等ヲ減ス即チ是レナリ

第六十三條ハ刑法第二百六條ト其趣意ヲ同フス唯將校ハ剝官ヲ附加スルノ一事異ナルノミ
第六十四條ハ軍人身局外ニ在リ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ貸與シタル者ノ罪ヲ定ム全ク刑法第二百二十七條

ト其趣意ヲ同フス

第六十五條ハ刑法第三百三十五條ト其趣意ヲ同フス唯
將校ハ剝官ヲ附加スルノ一事異ナルノミ

右數條ハ特別ノ理由アリテ之ヲ陸軍刑法ニ定メタル
モノナレハ軍人此等ノ罪ヲ犯ストキハ普通刑法ニ依
リ之ヲ處斷スルヲ得ス

又右數條中常人ニ通シ用フヘキモノアリ陸軍刑法第
十三條ニ曰ク敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第
五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八
條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲クル所ノ罪ヲ
犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其
豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條

ニ照シテ處斷スト故ニ常人ト雖モ或ハ陸軍刑法ノ支
配ヲ受ク普通刑法ノ支配ヲ受ケサルコトアリ然レト
モ陸軍刑法ノ支配スルモノハ敵前軍中若クハ臨戰合
圍ノ地ニ在テ犯シタル罪ノミ故ニ普通刑法ト陸軍刑
法トハ並ヒ行ハレテ而モ相悖ラサルモノナリ
海軍刑法ニ於テモ亦其第二編第一章ニ反亂ノ罪ヲ定
メタリ凡テ十七條第五十六條以下第七十二條ニ至ル
而シテ其第四條ニ海軍刑法ニ依リ常人ノ犯シタル罪
ヲ處斷スヘキ場合ヲ定メタリ但海軍刑法ニ定メタル
所ハ陸軍刑法ニ定メタル所ト全ク同一ナレハ別ニ論
スヘキコトナシ故ニ之ヲ略ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

○本章凡テ九節第一節ハ兇徒聚衆ノ罪ヲ定メ第二節ハ官吏ノ職務ヲ妨害スル罪ヲ定メ第三節ハ囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪ヲ定メ第四節ハ附和刑ノ執行ヲ遁ル、罪ヲ定メ第五節ハ私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪ヲ定メ第六節ハ往來通信ヲ妨害スル罪ヲ定メ第七節ハ人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ定メ第八節ハ官ノ封印ヲ破棄スル罪ヲ定メ第九節ハ公務ヲ行フヲ拒ム罪ヲ定ム

靜謐ヲ害スル罪ハ直接ニ公益ヲ害スルモノニシテ其性質内亂ニ近キモノアリト雖モ其目的タル政府ヲ顛覆シ若クハ之ヲ變亂シ邦土ヲ潛竊シ朝憲ヲ紊亂スルニアラズ唯公權ノ一部ヲ蔑如シ政府ノ殊ニ保護ヲ加フル所ノ人民ノ平和ヲ擾亂スルモノナリ故ニ其害ノ及フ所國事犯ノ如ク太甚シカラス其刑亦從テ輕シトス

第一節 兇徒聚衆ノ罪

○本節凡テ三條兇徒聚衆ノ罪ヲ定ム
兇徒聚衆ハ所謂一揆暴動ニシテ其形體內亂ト相類ス然レトモ其目的トスル所政府顛覆邦土潛竊等ニ非サレハ之ヲ國事犯トスルヲ得ズ特ニ之ヲ靜謐ヲ害スル罪中ニ列シタリ

第三百三十六條

兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ說諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上

靜謐ヲ害スル罪 兇徒聚衆ノ罪 第三百三十六條

三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ一圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス^{〔刑一〇四一〇〕}

○本條ハ兇徒多聚ヲ囂聚シテ暴動ヲ謀リタル者ノ罪ヲ定ム

暴動ヲ謀ルトハ未タ暴動ニ着手セサル以前チイフ豫備陰謀即チ是レナリ然レトモ其目的トスル所ハ年ノ凶荒ニ乘シテ賑貸ヲ促カシ或ハ租稅ノ緩弛ヲ訴フルニ在ルト村市ノ富豪ヲ脅掠シ若クハ囚人ヲ劫奪スルニ在ルトチ問ハス然レトモ其目的トスル所政府顛覆邦土潛竊朝憲紊亂ニ在ルトキハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ或問テ曰ク刑法草案第二編第二章ニハ其第三百三十五條ニ官省地方各官署ヲ傾覆若クハ變更シ又ハ其長官ヲ黜

除シ及ヒ其官署ニ於テ處分シタル法令ヲ廢シ若クハ中止セシムルノ目的ヲ以テ内亂ヲ起シタル者ハ前條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減スト定メ其第三百三十六條ニ立法行政官ノ議事又ハ各裁判所ノ審判ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ内亂ヲ起シタル者亦前條ノ刑ニ照シテ處斷スト定メ而シテ別ニ兇徒聚衆ノ罪ヲ定メサリキ然ルニ右二條既ニ削除セラレ特ニ兇徒聚衆ノ罪ヲ定メタル以上ハ右二條ニ定メタル罪ハ無論本節ニ依リ之ヲ處斷スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二說アリ甲曰ク第二百一十一條ニ所謂朝憲紊亂トハ其包含スル所極メテ廣シ草案第三百三十五條及ヒ第三百三十六條ニ定メタル罪モ亦其中ニ包含ス故ニ右草案二條ニ定メタル罪ハ兇徒聚衆ヲ以テ論スル

ヲ得スト乙曰ク朝憲紊亂ノ語タル其義極メテ廣シト雖
 モ其指ス所ハ一國ノ憲法ヲ紊亂スルニ在リテ草案第百
 三十五條及ヒ第百三十六條ニ定メタルモノヲモ包含ス
 ルモノニ非ス是レ草案第百三十四條ニ其他朝憲ヲ蔑如
 シトアリテ而シテ右二條ノ設ケアリシニ因ルモ亦明カ
 ナリ故ニ右草案二條ニ定メタル罪ハ本節ニ依リ之ヲ處
 斷スヘシト余ハ乙說ヲ可トス何トナレハ租稅ヲ廢弛シ
 法令ヲ變革シ或ハ官吏ノ處分ヲ改正セシムルカ如キ一
 個ノ官吏若クハ一箇ノ官署ニ對シ政府全體ニ係ラサル
 モノハ朝憲紊亂ノ中ニ包含セシムヘカラサレハナリ
 本條ノ罪ハ兇徒多衆ヲ嘯集シテ暴動ヲ謀リタルノミニ
 テハ未タ之ヲ形成セス官吏ノ說論ヲ受クルト雖モ仍ホ
 解散セサルトキ始メテ其罪ヲ形成スルモノナリ是レ本
 條ノ罪ハ豫備陰謀ニ止マリ未タ其事ヲ行ハサルモノナ
 レハ官吏ノ說論ヲ受ケ直チニ解散スルニ於テハ其危害
 未然ニ消滅シタルモノナレハ敢テ之ヲ罰スルノ要ナケ
 レハナリ

又本條ノ罪ハ其犯人ノ員數多ク且各自加功ノ度大ニ異
 ナレルヲ以テ刑ニ區別ヲ設ケ首魁及ヒ教唆者ハ三月以
 上三年以下ノ重禁錮ニ處シ附和隨行シタル者ハ二圓以
 上五圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ

○佛刑法第九十一條 國民又ハ住民ヲシテ互ニ兵器ヲ
 弄セシメ若クハ之ヲ弄セシメントスルノ「ゲール」シ
 ヲ非ル國内ノ戰ヲ煽起スルヲ又ハ一邑若クハ數邑

ニ於テ亂暴虐殺掠奪ヲ爲スヲ目的トスル「アツタン」
タ義ニ第百十六ハ死刑ニ處セラレヘシ刑七、一、二、三、六、
條ニ見ユ本條ニ定メタル重罪中ノ一ヲ目的トスル陰謀及ヒ
 此陰謀ヲ爲サントスルノ發言ハ第八十九條ニ定メ
 タル區別ニ從ヒ同條ニ定メタル刑ニ處セラレヘシ
刑九七、

同第百條 其黨中ニ在テ指揮ヲ爲シ若クハ職務ヲ行
 フコトナク文武官ノ最初ノ告戒ニ因リ其黨ヲ脱シ
 又ハ告戒後ト雖モ反亂者集合ノ場所外ニ於テ抗拒
 ヲ爲サス且兵器ヲ携ヘスシテ逮捕セラレタル者ハ
 反亂ノ爲メ毫モ刑ヲ言渡サル、コトナカルヘシ
 此場合ニ於テハ犯人其自ラ犯シタル特別ノ罪ノ爲

メニ非サレハ罰セラレヘカラス然レトモ犯人ヲ五
 年以上十年以下ノ特別監視ニ付スルコトヲ得ヘシ
刑一、四、四、
四五、四九、

第三百三十七條

兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ
 村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者
 ハ重懲役ニ處シ其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル
 者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行
 シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス刑一〇
四以下、
 ○本條ハ兇徒多衆ヲ嘯集シ暴動ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定

官廳ニ喧鬧スルトハ多人數相集合シテ喧囂騷動シ以テ

院省府縣其他ノ官署ニ強訴スルノ類チイフ又官吏ニ強
 迫スルトハ暴威暴行ヲ以テ官吏ヲ脅シ之ニ逼ルチイヒ
 又村市ヲ騷擾スルトハ凶荒ノ際富豪ノ賑貸セサルヲ憤
 リ其家宅財産ニ亂暴スルノ類チイフ其他何事ニ限ラズ
 暴動ヲ爲シタル者ハ其目的ヲ達シタルト否トヲ問ハズ
 本條ニ依リ之ヲ處斷ス而シテ本條ノ罪ハ前條ト異ナリ
 テ官吏ノ説諭ニ從ハサルノ一條件ヲ必要トセス是レ本
 條ノ罪ハ既ニ事ヲ行ヒタルモノナレハ縱ヒ官吏ノ説諭
 ヲ受ケ其事ヲ停止スルモ之ヲ不問ニ付スルヲ得サレハ
 ナリ

本條ノ罪モ亦其刑ヲ區別シテ三ト爲シ首魁及ヒ教唆者
 ハ重懲役ニ處シ嘯集ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ

輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減シ附和隨行シタル
 者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ
 前條ニ煽動者ノ目ナクシテ本條ニ其目アルハ是レ本條
 ハ既ニ暴動ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定メ前條ハ未タ暴動ヲ
 爲サ、ル者ノ罪ヲ定メタルノ差アルカ故ナリ

○佛刑法第九十一條 前條ニ全
文ヲ掲ク

同第九十七條 第八十六條 第八十七條 及ヒ第九十一
 條ニ定メル一箇若クハ數箇ノ重罪群衆ニ因リ施行
 セラレハ又單ニ試犯セラレタル場合ニ於テハ總テ
 其黨ニ加ハリ且反亂者集合セル場所ニ於テ逮捕セ
 ラレタル者ニハ其等級ノ別ナク死刑ヲ適用スヘシ
 其場所ニ於テ逮捕セラレスト雖モ反亂者ヲ統御シ

又ハ黨中ニ在テ職務若クハ指揮ヲ爲シタル者ハ同
刑ニ處セラルヘシ 〔刑七、一、三、三六、
民二七、三、三六、

同第九十八條 結黨ノ目的若クハ其結果第八十六條
第八十七條及ヒ第九十一條ニ定メタル重罪ノ一箇
又ハ數箇ニ在ル場合ヲ除クノ外前數條ニ記載シタ
ル黨中ニ在テ毫モ其指揮若クハ職務ヲ行ハス且其
場所ニ於テ逮捕セラレタル者ハ流刑ニ處セラルヘ
シ 〔刑七、一七、
一八、三六、

第三百三十八條

暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シ
タル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス
首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ 〔刑一〇五、

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○暴動ノ目的ニ關セサル罪ヲ犯シタ
ル者ハ如何

三 第二項ノ解○殺死罪若クハ燒燬罪ノ教唆者ハ如
何スヘキ乎

〔一〕○本條ハ暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶等ヲ燒燬
シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ現ニ手ヲ下シテ人ヲ殺死シ又ハ火ヲ
放チ家屋等ヲ燒燬シタル者ノ罪ヲ定ム

暴動トハ數多ノ所爲ニ成ルモノニシテ人ヲ殺傷シ或ハ
逮捕監禁シ或ハ脅迫シ或ハ家屋物品ヲ燒燬シ若クハ之
ヲ毀壞シ或ハ動物植物ヲ損害スルカ如キ皆ハ暴動ノ罪

ヲ組成スルモノナリ故ニ別ニ之ヲ問フヘカラスト雖モ
人ヲ殺死シ又ハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬スルハ其情尤モ
重ク其害殊ニ大ナリ是レ特ニ本項ノ定メアル所以ナリ

〇

人ヲ殺死スルトハ故殺謀殺トテ問ハスト雖モ過失殺及
ヒ毆打創傷因テ死ニ致シタル者ハ此限ニ在ラス是レ殺
死スルトハ殺スト同ク働キ掛ケノ辭ナレハ故ラニ人ヲ
殺シタル者ノ外ニ之ヲ適用スルヲ得サレハナリ

又本條ニハ家屋船舶倉庫等トアリ此等ノ字ニハ如何ナ
ルモノヲ包含スヘキ乎事頗ル曖昧ニ屬ス例ヘハ人ノ住
居シ又ハ住居セサル家屋其他ノ建造物及ヒ人ヲ乘載シ
若クハ之ヲ乘載セサル船舶漁車ニ放火シタル者ハ勿論
本條ノ正面ニ當ルト雖モ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル

屋舎ニ放火シ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴
草竹木其他ノ物件ニ放火シタル者及ヒ自己ノ家屋ニ放
火シタル者モ猶ホ之ヲ其範圍内ニ列セシムルハ頗ル酷
ニ過クルカ如シ然レトモ第三編第二章第七節ニ放火ノ
罪ヲ定メ而シテ本條ニ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタルト
キトアル以上ハ右數箇ノ罪ヲ犯シタル者ハ本條ニ依リ
之ヲ處斷セサルヘカラサルヘシ
○或問テ曰ク本條ノ罪ハ暴動ノ目的ニ關スルト否トテ
問ハサル乎ト曰ク本條ニハ唯暴動ノ際トアリ故ニ其目
的ニ關スルト否トテ問ハサルモノト解セサルヘカラスト
然レトモ暴動ノ人數ニ加ハラサル者此等ノ罪ヲ犯シタ
ルトキハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

右ノ如ク暴動ノ目的ニ關スト否トヲ問ハス本條ニ依テ之ヲ處斷スルハ少ク其理ニ反スルニ似タリト雖モ退テ考フルニ亦以テ其然ラサルヲ知ル何トナレハ暴動ノ際ハ人心恟々トシテ其堵ニ安ンセス此時ニ際リテ人ヲ殺死シ若クハ火ヲ放ツ者アルトキハ其公安ヲ擾亂シ社會ニ危害ヲ加フル實ニ太甚シ且暴民事ヲ行フ之ヲ常人ニ比スレハ易ク之ヲ防ク從テ難ケレハナリ

或問テ曰ク然ラハ暴動ノ際本條ニ定メタルヨリ以外ノ罪ニシテ暴動ノ目的ニ關セサルモノヲ犯シタルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク暴動ニ關係ヲ有セサル罪ハ暴動ヲ組成スルモノニ非ス故ニ若シ暴動ニ乘シ全ク其目的ニ關セサル罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ依リ其罪ヲ論シ數

罪俱發例ニ依リ一ノ重キニ從テ處斷スヘキナリ

(三)〇第二項 本項ハ兇徒聚衆ノ教唆者及ヒ首魁殺死放火

ノ情ヲ知テ之ヲ制セサル者ノ罪ヲ定ム

兇徒聚衆ノ教唆者及ヒ首魁其多衆ヲ囂集シ暴動ヲ爲スニ方テハ身既ニ其衆ヲ統御スルノ責アルヲ以テ其衆中人ヲ殺シ火ヲ放タントスル者アルヲ知テ之ヲ制セサルトキハ之ヲ默許シタルモノナレハ必ス其責ニ任セサルヘカラス故ニ首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ之ヲ制セサル者ハ下手者放火者ノ正犯ト看做シ之ヲ死刑ニ處スヘシト定メタリ

○或問テ曰ク若シ兇徒聚衆ノ教唆者若クハ首魁ニ非サル者殺人又ハ放火ノ罪ヲ教唆シタルトキハ如何スヘキ

乎ト曰ク本項ニ所謂教唆者及ヒ首魁トハ兇徒聚集ノ教唆者及ヒ首魁ナリ而シテ前項ニハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ストアリテ教唆者ノ事ニ及ハス故ニ之ヲ罰スルヲ得サルカ如シ然レトモ總則ハ明カニ之カ反對ヲ定メタル場合ヲ除クノ外ハ百段ノ罪ニ適用スヘキモノナレハ本條ニ定メタル罪ヲ教唆シタル者ハ第百五條ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○本節凡テ三條官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ヲ定ム凡ソ直接ニ官吏ト人民トノ間ニ生スル罪二種アリ人民官吏ニ對シテ犯ス罪官吏人民ニ對シテ犯ス罪即チ是レ

ナリ本節ハ乃チ人民ノ官吏ニ對シテ犯セル罪ヲ定メ官吏ノ人民ニ對シテ犯セル罪ハ本編第九章第二節ニ之ヲ定メタリ

抑官吏ノ其職務ヲ行フハ公權ノ一部ヲ施行スルモノナリ其職務ヲ行フヲ妨害スルハ公權ヲ蔑如スルモノナルカ故ニ之ヲ公益ニ關スル罪ノ一種ト爲シタリ然レトモ兇徒多衆ヲ囂集シテ官吏ノ職務ヲ妨害シタルトキハ本節ノ正面ニ當ラサルナリ

第三百三十九條

官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔刑〕二七六以下

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔二〕〇本條ハ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ暴行脅迫ヲ以テ現ニ職務ヲ行フ官吏

ニ抗拒シタル者ノ罪ヲ定ム

官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行スルトハ民事刑事ノ

裁判官其管轄事件ノ審判ヲ爲シ收稅官吏諸種ノ租稅ヲ

徵收スルノ類ノ如ク直接ニ法律規則ニ從ヒ事ヲ行フヲ

イフ又行政司法官署ノ命令ヲ執行スルトハ府知事縣令

ノ命ヲ受ケテ其屬官郡區吏之ヲ行ヒ若クハ檢事ノ命令

ニ依リ巡查犯人ヲ逮捕シ又ハ獄吏刑ヲ執行スルノ類ノ

如キ直接ニ法律ヲ執行スルニ非ス法律ニ從ヒ當該官ヨ

リ下シタル命令ヲ執行スルヲイフ

右ノ如ク官吏タル者直接若クハ間接ニ法律ニ從ヒ事ヲ

行フトキハ人民必ス之ニ服從セサルヘカラサルノ義務

アリ若シ人民ニ服從ノ義務ナク妄リニ之ニ抗拒スルヲ

得ルトセハ社會命令權ニ之ヲ必行スルノ權威ナルモノ

ナク遂ニ社會ノ安寧ヲ維持スル能ハサルニ至ルヘシ是

レ本項ニ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務ヲ妨害シタル者ハ

四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加スヘシト定メタル所以ナリ
本項ノ罪ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク本項ノ罪ノ目
的タル人ハ官吏ナルコト曰ク官吏其職務ヲ以テ法律規
則又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ之ニ抗拒
シタルコト曰ク暴行脅迫ヲ以テ官吏ニ抗拒シタルコト
是レナリ左ニ逐一之ヲ解説スヘシ

○第一條件 官吏ハ公權ヲ施行スルモノナレハ暴行脅迫
ヲ以テ其職務ヲ行フヲ妨害シタル者ハ之ヲ罰スヘキモ
官吏タラサル者ハ公權ヲ施行スルノ權アラサレハ之ニ
對スルノ罪ハ本條ノ正面ニ當ラズ然レトモ法律上官吏
ハ職務ヲ代理スルヲ許サレタル者ハ之ヲ官吏ノ中ニ包
含セシメサルヘカラス

第二條件 此條件ニ付テハ二箇ノ疑點アリ第一官吏其
職務ヲ行フトキ之ニ抗拒セスシテ其職務ヲ行フ前後ニ
官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ如何第二官吏ノ行
フ所其實法律規則ニ反スルトキハ如何今之ヲ詳論スヘ
シ

第一本項ニハ官吏云々スルニ當リトアリ當リトハ現ニ
執行ヲ爲スノ當時ヲ指スモノニシテ其前後ヲ指スモノ
ニ非ス故ニ若シ官吏未タ其職務ヲ行ハサル前又ハ之ヲ
行ヒ了タル後暴行脅迫ヲ以テ官吏ニ抗拒シタル者ハ其
目的ノ如何ヲ問ハズ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得ス毆打
創傷若クハ脅迫ノ各本條ニ依リ之ヲ處斷スルノ外アラ
サルナリ例ヘハ裁判官ニ對シ其裁判前云々ノ事ヲ爲ス

トキハ之ヲ斬殺スヘシト脅迫シ若クハ官吏ノ處分ヲ憤
リ處分後之ヲ毆打スルノ類ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ
得サルナリ

○第二本項ニハ官吏其職務ヲ以テ云々トアリ故ニ官吏章
程權限ニ依リ事ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ
抗拒シタル者ハ之ヲ罰スヘキモ若シ其章程權限ニ依ラ
ズ不法不正ニ事ヲ行フニ當リテ之ニ抗拒シタル者ハ本
條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルニ似タリ然レトモ本件ハ
一概ニ此ノ如ク論スルヲ得ス「フオースタン、エリー」氏ハ詳
細ニ此點ヲ論セリ因テ先ツ其大要ヲ譯述シ然ル後之ヲ
論決スヘシ

「フオースタン、エリー」氏刑法論曰ク第二ノ難點ハ最モ重大緊

要ナルモノニシテ久ク世上ノ一問題ト爲レリ之ニ關ス
ル判決例猶ホ今日ニ至ルマテ區々トシテ一定セズ因テ
少ク此點ヲ開説スヘシ
大審院ニ於テハ抗命ノ罪ハ處分ノ正否ニ關セサルトノ
原則ヲ定メタリ然レトモ其判決タル必ズシモ同一ナラ
ズ又必ズシモ常ニ變セサルモノニ非ズ第一例ハ「トッル」
ズ控訴院ニ於テ脱營者ヲ逮捕センカ爲メ民家ニ進入シ
タル備警兵ニ抗拒シタルモ其進入タル不規則ナルカ故
ニ抗拒ノ罪ナシト判決シタリ大審院ニ於テハ裁判長「ハ
リス」氏「メルラン」氏ノ意見ヲ聽キ千八百十二年四月十六
日附ヲ以テ事實ニ依ルニ備警兵ハ不規則ナル處置ヲ爲
シタルモノニ非ズ故ニ備警兵法律ニ從ヒ其職務ヲ行フ

ニ當リ其場所ニ於テ持兇器抗命ノ罪ヲ形成スヘキ暴行アリタルモノト判決セリ此判決タル暗々裡ニ「トツル」控訴[○]準據セシ所ノ規則ヲ是認シタルヤ明白ナリ何院[○]トナレハ其判決ノ基由スル所ハ公力者法律ニ從ヒ其職務ヲ執行シタリトノ理由ナレハナリ

第二例ハ使吏備警兵二名ノ立會ニ因リ身體ヲ拘束スヘキ民事上ノ裁判言渡ヲ執行セシカ爲メ民家ニ到リタルノ事件ニ係レリ本人此執行ニ抗拒シタルカ故ニ抗命罪ノ公訴ヲ起シタリ然レトモ輕罪裁判所ニ於テ使吏ハ治安判事ヲ同伴スルニ非サレハ訴訟法第七百八十一條第五ニ依リ國民ヲ其家宅ニ於テ取押ユルヲ得サルカ故ニ之ニ抗拒シタルノ所爲ハ毫モ其罪ヲ形成セスト判決シ

タリ然ルニ大審院ニ於テハ此判決ヲ破毀セリ其判文ニ曰ク此法式ヲ闕キタルコトハ本人ノ爲メニ其身體ニ對スル執行ヲ取消サシメ且損害賠償ヲ要求スルノ訴權ヲ生スルモ此法式ヲ闕キタルト否トハ專ラ管轄裁判官ノ判定ニ委スヘキモノナレハ此闕點アルカ爲メ使吏ニ對シ暴行ヲ爲スヲ許スヘキモノニ非ス第二百九條ニ依ルニ裁判所ノ令狀ヲ携帶シ其執行ヲ爲ス所ノ公務人ニ對シ暴行ヲ以テ抗拒シタルトキハ抗命ノ罪アリ而シテ該條ハ罪ノ成立ヲシテ公務人ノ履行スヘキ法式ノ多少不規則ナルト否トニ關係セシムルコトナシ蓋シ人民ハ暴行ヲ以テ法律及ヒ法律ニ從ヒ爲ス所ノ處分ニ服從スヘキ義務ヲ拒絕セシカ爲メ其法式ヲ闕キタルト否トキ自

千八百二十四年四月

ラ行裁判スルノ権利アラサルナリト月十八日附判決
 第三例ハ第二例ト同ク其事タル現行犯ニ非サル場合ニ
 警部ノ發シタル逮捕命令ノ執行ニ對シ抗拒シタルノ件
 ナリ大審院ニ於テハ同ク左ノ如ク判決セリ曰ク何レノ
 場合ニ於テモ處分ノ不法ナルカ爲メ人民ニ暴行ヲ以テ
 之ニ抗拒スルヲ許スコトナシ然ラサルトキハ人民ニ官
 ヨリ發シタル處分ノ當否ヲ判定スルヲ許スニ至ルヘシ
 此ノ如クシテハ公ケノ秩序之カ爲メニ顛覆スヘシ是レ法
 律ノ容レサル所決テ之ヲ許スヘカラスト年一月五日附
 決判

右第二例第三例ハ第一例ト全ク相異ナルヤ明白ナリ是
 レ法式ノ不規則ナルトキノミナラズ命令ノ不法ナル場

合ト雖モ亦公力ニ對シ抗拒シタル者ノ罪ヲ恕スルコトナ
 シト判決シタルモノナレハナリ然レトモ右ノ事件ニ於
 テハ公務人及ヒ公力者ハ裁判所ノ命令狀若クハ裁判言
 渡書ヲ携帶シ官ヨリ發シタル命令ニ依リ事ヲ行ヒタル
 モノナリ此等ノ模様ハ右ノ判決ヲシテ允當ナラシムヘ
 シト雖モ左ノ事件ニ付テハ此ノ如キ模様アラサルナリ
 大審院ニ於テハ公力者ノ利益ノ爲メ其處分適法ナリト
 ノ推測ヲ定メタリ此推測タル常ニ處分ニ附從シテ其闕
 點ヲ蔽フモノナレハ其處分ニ對スルノ襲撃ハ必ス抗命
 ノ罪ヲ成スモノナリ一ノ判文ニ曰ク公力者法律上委任
 セラレタル性質ヲ以テ現ハレ且其委任セラレタル職務
 ヲ行フノミヲ以テ之ニ對シ暴行ヲ爲スヲ禁スルニ充分

ナリトス若シ然ラサルトキハ擅權ヲ變シテ正當行權ト爲スモノニシテ一切ノ秩序ヲ顛覆シ法律ヲ蔑如スルニ至ルヘシト月千八百二十六年七月他ノ判文ニ曰ク法律ハ法律ヲ維持スヘキ公力者及ヒ其長官ハ法律ヲ遵奉シ且之ニ從フニ非サレハ事ヲ行ハサルモノト推測ス長官法ニ背キ其權利ヲ濫用シタルトキハ必ス其責ニ任スヘシト雖モ此責任タル國民ヲシテ之ニ服従スヘキノ義務ヲ免カレシムルコトナク又何レノ場合ニ於テモ國民ニ反對ノ證アルマテハ法律ニ從ヒ當該官ヨリ發シタルモノト思料スヘキ處分ニ對シ暴行ヲ以テ抗拒スルヲ許スコトナシト月千八百二十四年其他二箇ノ裁判ヲ以テ一ハ刑ノ言渡ニ因リ逮捕セラレタル犯人ハ其逮捕ノ法律ニ反ス

ル旨ヲ申立テ以テ其抗拒ノ罪ヲ免カル、ヲ得スト決シ月千八百三十九年十二月一ハ稅關吏ヲ其住所外ニ押出シタル密輸入者ハ稅關吏詐欺ヲ以テ輸入シタル物品ニ眼ヲ離サスシテ之ヲ追跡シ且其場所タル閉鎖シアラサルカ故ニ家宅ノ侵スヘカラサル旨ヲ主張スルヲ得スト決シタリ月千八百四十九年八大審院最終ノ判決例ハ右ニ掲ケタル如シ其規則タル頗ル嚴格ナリ縱ヒ命令ノ不法ナルモ又權威ヲ濫用スルモ國民タル者ハ必ス之ニ服従セサルヘカラス國民ハ法律上正當ナリト推測スヘキ處分ニ對シ異議スルヲ得ス唯執行後訴ヲ爲スノ權アルノミト爲スモノナリ

控訴院ニ於テハ右ノ論ヲ贊成セス「ア」シヤン「控訴院ニ於テ

ハ騷擾セル多衆ヲ解散セシメンカ爲メ長官ノ率ユル分
 隊兵ニ對スル暴行ハ若シ其分隊兵行政官ノ要求ヲ受ケ
 タルモノニ非サルトキハ抗命ノ罪ヲ成サスト言渡シタ
 リ「リヨン」控訴院ニ於テハ使吏及ヒ二名ノ備警兵治安判
 事ノ立會ナク負債者ノ住所ニ就テ其身體ヲ拘束スヘキ
 裁判言渡ヲ執行セントスルトキハ本人之ニ抗拒スルノ
 權アリト認メタリ「リラム」及ヒ「ニス」控訴院ニ於テハ夜
 中民家ニ進入シタル備警兵ニ對スル暴行又ハ身體ヲ拘
 束スヘキ命令書ヲ携帶シ之ヲ被告人ニ示サ、ル備警兵
 ニ對スル暴行ハ抗命ノ罪ヲ形成セスト判決シタリ「リモ
 ーシユ」控訴院ニ於テハ備警兵ハ違警罪犯人ヲ逮捕シ之
 ヲ獄舎ニ引致スルヲ得ス故ニ犯人ハ此ノ如キ處分ニ抗

拒スルノ權利ヲ有スト明言シタリ
 此等ノ區々タル判決例ニ就テ本件ノ原則及ヒ第二百九
 條ノ眞義ヲ探究セサルヘカラス第一ニ注意スヘキハ往
 昔既ニ公力者其職權ヲ越ヘタルトキハ之ニ對シ大審院
 ニ於テハ一切ノ秩序ヲ顛覆スルモノト爲ス所ノ抗拒ノ
 權アリト爲シタリシコト是レナリ羅馬法ニ於テハ正文
 ヲ以テ之ヲ定メタリキ「フアリ」ナシユス「氏」ハ人民ハ裁判所ノ
 命令ニ服從セサルヘカラストノ格言ヲ定メ直チニ之カ
 例外ヲ設ケ裁判官又ハ其配下ノ官吏其權限ヲ越ヘタル
 トキハ此限ニ在ラスト爲シタリキ
 此抗拒ノ權利アル所以ハ「グロチユス」氏之ヲ明示セリ其說
 タル力ヲ使用スルハ他ノ權利ヲ害スル場合ニ非サレハ

之ヲ不正ノ業トセズ其目的不正ナル攻撃ヲ排斥スルニ在ルトキハ則チ正當ノ業ナリト爲スモノナリ故ニ公力者ハ人ノ權利ニ對シ事ヲ行ヒ而シテ其處分越權ナルトキハ既ニ其資格ヲ損傷スルモノニシテ管ニ是レ尋常一私人ノミ人民力ヲ以テ其暴行ヲ排斥スルヲ得ヘク其處分ニ抗拒スルヲ得ヘシ「ハルベイラック」氏之ヲ論シテ曰ク人民ハ力ヲ以テ力ニ抗スルコトナク必ス其長上ノ處分ヲ忍ハサルヘカラサルモノトスルヲ得ス若シ必スシモ之ヲ忍フヘシトセハ社會ニ加入スル人民ノ身分ハ實ニ不利不幸ナリトイハサルヘカラス云々ト此ノ如キノ說ハ吾カ古法ノ下ニ在テ入專ラ之ヲ傳授セリ「ジョース」氏曰ク拘禁セントスル者ニ對シ之ニ抗拒ス

ルヲ得ル場合アリ譬ヘハ人ヲ逮捕セントスル者其身分ヲ有セサルトキ其身分ヲ有スルト雖モ其職務ヲ行フノ記章ヲ有セサルトキ其身分ヲ有セサル裁判官ノ命令狀ヲ携帯スルトキ又ハ其權限ヲ越ヘ若クハ法式ヲ履行セサルトキノ如キハ然リトス實ニ此種ノ抗拒ハ抗命ニ非スシテ寧ロ正當防禦ナリ故ニ不正ニ逮捕セラレントスル者ハ管ニ之ニ抗拒スルヲ得ルノミナラス亦其防禦ヲ助成セシメンカ爲メ朋友隣黨ノ救援ヲ請フヲ得ヘシト「憲法議院ニ於テハ此原則ヲ採用シ暴行ハ職務ノ順序ニ依リ法律ニ從ヒ事ヲ行フノ公力者ニ對シテ行フニ非サレハ之ヲ抗命ノ罪ト爲サ、リキ千七百九十三年五月二十四日附ノ憲法第十一條ニ於テハ千七百九十一年ノ立

法官ノ精神ヲ擴充シテ左ノ如ク定メタリ曰ク法律ニ定メタル場合ノ外ニ於テ其法式ヲ履行セズシテ人ニ對シ行ヒタル處分ハ總テ暴虐ナリトス暴行ヲ以テ此等ノ處分ヲ執行セラレントスル者ハ力ヲ以テ之ヲ排撃スルノ權アリト此規則タル嚴格ニ失スルヤ敢テ疑ヲ容レスト雖モ近世諸國ノ法律往々之ヲ採用シタルモノアリ「ブレシ」ル國ニ於テハ管轄官吏ノ適法ナル命令ノ執行ニ對シ力ヲ以テ抗拒シタルトキニ非サレハ抗命ノ罪トシテ罰セス第六條「ルイジヤヌ」國モ亦官廳ノ處分ノ適法ナル執行ヲ妨害シタル場合ニ非サレハ之ヲ罰セス而シテ尙ホ之ニ加ラルニ抗拒ノ目的トスル所不法ナル處分ノ執行ヲ妨クルニ在ルトキハ重罪モ輕罪モナシトノ法ヲ以テセリ」

右既ニ本件ニ關スル諸例及ヒ事實說論ハ畧ホ記述シテ餘蘊ナシト信スルヲ以テ今一步ヲ進メ本件ノ眞原則ハ果テ何邊ニ存スルカヲ探究セントス而シテ之ヲ探究スルニハ先ツ大審院判決ノ主トシテ依憑スル所ノ說ヲ排斥セサルヘカラス業ニ已ニ古法ニ定メラレタルノミナラス近世諸國ノ法律亦之ヲ定メ數百年間實行セラレ且有名ナル法學者ノ傳授スル所ノ抗拒ノ權ヲ以テ一切ノ秩序ヲ顛覆シ法律自ラヲ蔑如スルモノトスルハ敢テ信スルニ足ルヘキ乎否ナ社會ハ法律ヲ以テ職務ニ權限ヲ設ケタリ故ニ之ヲ越ヘテ不規則ナル處分ヲ爲ス者ハ之ヲ保護セサルモ敢テ社會ニ危害ヲ生スルコトナシ又法律ヲ執行スルノ任アル者蔑如セラレタルモ其者自ラ職

務ヲ蔑如シタルトキハ之カ爲メ法律蔑如セラレタリト
 シス危害ハ擅權ト行權ヲ混同シテ共ニ之ヲ保護スルニ
 在リ又蔑如ハ擅權ナル處分ヲ庇保スルニ在リ今ヤ明了
 ニ本件ノ問題ヲ定メサルヘカラス茲ニ證明スヘキハ公
 權ニ對スル抗拒ノ原理ニ非ス若シ茲ニ此解ヲ與フヘシ
 下セハ豫メ明言スヘキコトアリ即チ官吏ハ其職權ヲ越
 越ルトキハ公權ノ代人タルノ身分ヲ失フ是レナリ何ト
 ナレハ自由政府ニ於テ公權ト稱スルモノハ法律タリ又
 權利タレハナリ茲ニ論決スヘキハ法律ハ官吏其權限ヲ
 越ユルモ仍ホ之ヲ保護スヘキ平又其法規ヲ犯スモ仍ホ
 之ヲ是認スヘキ平ノ點ナリトス其解縱ヒ區々タルモ而
 モ公ケノ秩序ハ本件ニ重大ナル關係ヲ有スルコトナキ
 ノ點ヲ認メサルヘカラス何トナレハ秩序ハ官吏ノ越權
 ヲ維持スルノ利益ナケレハナリ蓋シ秩序ハ法律ニ基由
 シテ擅權ニ基由スルモノニ非サルナリ
 然レトモ本件ニ付テハ一概ニ嚴格ナル規則ヲ設クヘカ
 ラス之ヲ設クルトキハ遂ニ其正鵠ヲ失スヘシ何事ニ限
 ラス公力者ノ處分不法ナルトキハ必ス抗拒ノ權利アリ
 トセハ必スヤ爲メニ危害ノ生出スルコトアラシ官吏知
 ラスシテ其權限ヲ越ヘタルトキモ亦其保護ヲ受クヘカ
 ラストスルコトハ到底能ハサルノミナラス此ノ如クス
 ルトキハ隨テ危險ヲ醸生スヘシ使吏書類ヲ携帯スルト
 キハ己レ其不規則ナルヤ否ヲ判別スルノ責ナシ其書類
 不規則ナリトセシ平使吏ヲシテ己レノ過失ニ非サルノ

責ニ任セシムルヲ得ス國民ハ自ラ處分ノ無效ナルコトヲ判決スルノ權ナク唯裁判所ニ向テ之ヲ證明スルノ道アルノミ國民ニ其己レニ對シ執行スヘキ處分ノ當否ヲ決スルノ權アラシムルハ是レ官吏ヨリ其法律上委任セラレタル威力ヲ剝奪スルモノナリ故ニ大審院ノ憂フル所亦其理アルカ如シ實ニ法律及ヒ官署ノ處分ノ執行不規則ナルトキハ必ス信憑ヲ失フヘシ然レトモ抗拒ハ陽ハニ權利ニ對スル襲撃ヲ排斥スルトキニ非サレハ正當ナリトスルヲ得サル非常ノ方法ナリ「ハルベイラック」氏曰ク不正中疑訝ニ屬シ且忍フヘキモノト著明ニシテ且忍フヘカラサルモノトテ區別セサルヘカラス人ハ第一ノ不正即チ忍フヘキモノハ之ヲ忍ハサルヘカラス他ノ不

正チ忍フノ義務アラサルナリト此限界ヲ定ムルコト是レ即チ本件ノ難事ナリ
 一般ノ原則ハ公權ノ命令ニ服從シ公力者ノ處分ヲ遵奉スルニ在リ故ニ此官吏ニ對スル外形ノ抗拒即チ暴行ハ必ス罪ヲ形成シ宥恕及ヒ無罪ノ證ヲ舉グルニ非サレハ其性質ヲ失フコトナシ大審院ニ於テ法律ノ推測ハ官吏ノ利益ナリトノ原則ヲ定メタルハ蓋シ其理アリ此推測タル事物自然ノ理ニ基クモノナリト雖モ而モ輕忽ニ其結果ヲ擴張スヘカラスナルナリ
 余輩ハ第一ニ官吏其職務ノ執行ヲ爲ストキ執行スヘキ書類ヲ携帶スルトキハ其處分又ハ其書類ニ瑕瑾アルモ之ニ抗拒シタルノ罪ヲ宥恕スルヲ得ストス何トナレハ

利益ナル推測ハ其書類ニ在リ又其職務ヲ行フ官吏ニ在レハナリ若シ其不規則ナルカ爲メ國民其權利ヲ害セラレタルトキハ法律ニ定メタル方法ニ因リ之カ賠償ヲ要ムヘキナリ官吏不規則ナル事ヲ行ヘリト雖モ其事ヲ行ヒタルハ其權限内ニ在リ而シテ官吏他ノ權利ヲ害シタルトキハ其責ニ任セサルヘカラスト雖モ暴威ヲ以テ之ヲ害シタルニ非サル以上ハ之ニ對スル暴行ハ其原因ナシ決テ其罪ヲ恕スヘカラサルナリ故ニ前ニ掲載シタル千八百二十年四月十四日及ヒ千八百二十一年一月五日附ノ判決ハ其關係事件ニ就テハ敢テ非難スヘキモノニ非ス何トナレハ右二箇ノ事件ニ於テハ執行ノ任アル官吏其權限内ニ於テ事ヲ行ヒ且執行スヘキ書類アリ唯一

ハ其執行不規則ニシテ一ハ執行スヘキ書類不規則ナルノミ此不規則タル本人ヨリ訴ヲ爲スノ理由ト爲ルヘキモ有形上ノ抗拒ヲ爲スノ理由ト爲ルヘカラサレハナリ然レトモ適法ナリトノ推測ハ官吏越權ノ罪ヲ犯シ權利ヲ害スルノ罪ヲ犯シタルトキハ忽チ消滅スヘシ例ヘハ公力者現行犯ニ非サル場合ニ於テ令狀ナクシテ逮捕ヲ爲サントスルトキ使吏裁判言渡書ヲ明示セス直チニ差押ヲ爲サントシ若クハ法律ニ定メル場合ノ外家宅搜索ヲ爲サシカ爲メ夜中民家ニ進入セントスルトキノ類皆ナ是レナリ此等ノ處分ヲ爲シタル官吏ハ其職務ヲ行フノ故ヲ以テ保護ヲ受クヘカラスト何トナレハ官吏其職務外ノ事ヲ行ヒタルモノナレハナリ又書類ハ之ヲ示サス

又ハ法律其執行ヲ許サ、ルカ故ニ其書類ヲ以テ處分ノ不當ナラサル旨ヲ證明スルヲ得ス其處分不法ナル罪ノ性質ヲ有スル程ノモノナレハ推測之ヲ保護スルコトナシ而シテ此罪タル權利ニ對スル暴行ナリ故ニ之ニ抗拒スルノ權ヲ非トスルヲ得ス此抗拒タル力ニ抗スルニ力ヲ以テスルノ正當防禦ナリ何トナレハ官吏其職務外ニ於テ行ヒタル處分法律又ハ官署ノ命令ヲ執行シタルニ非ハル以上ハ即チ一ノ暴行ニ外ナラサレハナリ他ノ場合ニ於テ他ノ者ニ對シテ正當ナル所ノ抗拒ハ其人ノ身分ニ因テ性質ヲ變スルノ理ナシ又其身分ハ暴行ヲ爲シタル者ノ責任ヲ變スルノ理ナシ不正ノ挑發不法ノ處分ニ抗拒シタルニ過キサルトキハ官吏其處分ヲ行ヒタル

カ故ノミニテ之ヲ抗命ノ罪トスルノ理アラサルナリ然レトモ處分不正ナルモ必スシモ之ヲ排斥シンカ爲メ爲シタル暴行ヲ宥恕スルモノニ非ス不規則ナル處分ノ執行ヲ爲ス官吏唯其執行ニ應ジシコトヲ要ムルニ過キサルトキハ口頭ヲ以テ之ヲ拒ミ若クハ不働即チ忍耐ノ抗拒ヲ爲スヲ以テ其權利ヲ保護スルニ充分ナリトス故ニ官吏力ヲ以テスルニ非サレハ力ヲ以テ之ニ抗拒スヘカラス且此場合ニ於テモ其抗拒襲撃ノ度ニ應スヘク且之ヲ防シニ必要ナル方法ノ外之ヲ用フヘカラス何トナレハ其方法權利ヲ保護スルニ必要ナラサルトキハ其防禦正當ナラス其暴行恕スヘカラサレハナリ然レトモ此ノ如キ暴行ヲ爲シタル者ハ抗命ノ罪アリトシテ訴ヲ受

之ヘカラス必要ナラサルニ爲シタル暴行ヨリ成ル所ノ
 特別ノ罪アリトシテ訴ヲ受クヘシ是レ抗命ノ罪ハ公權
 ノ處分ニ反對スルヲ必要ト爲セハナリ
 余輩ハ右ニ開陳シタル所ヲ以テ此重要ナル問題ヲ決ス
 ルヲ得ヘシト信ス余輩ガ設ケント欲スル所ノ區別ハ本
 件ニ關係ヲ有スル諸種ノ利益ヲ調和スヘシ此區別タル
 抗命罪ヲ罰スルノ法理ヨリ直接ニ生スル所ノ結果ナリ
 何トナレハ公權ニ對スルニ非サレハ抗命ノ罪アルノ理
 ナケレハナリ又此區別ハ刑法ノ正文ニ適應スルモノナ
 リ實ニ第二百九條ニ於テハ抗命罪ヲ罰スルニハ法律官
 廳ノ命令裁判所ノ命令裁判言渡ヲ執行スルニ當リ其官
 吏ニ對シ犯シタルヲ必要ト爲セハ抗命罪ニハ必ス二箇
 ノ條件ヲ具備スルヲ要スルコト明カナリ第一ノ條件ハ
 官吏其權限内ニ於テ職務ヲ執行スルコトニシテ第二ノ
 條件ハ官吏法律及ヒ其受ケタル命令ヲ執行スルコト即
 チ其任セラレタル職務内ノ事ヲ行フコトナリ故ニ此二
 條件具備スルトキニ非サレハ法律其職務ノ執行ヲ保護
 セス又之ヲ具備スルトキニ非サレハ之ニ對スル暴行ヲ
 以テ法律ニ對シ若クハ公權ニ對スルモノト看做サス此
 解釋タル第二百九條ノ文義ニ率由スルモノニシテ且能
 シ本件ニ關スル原則ニ適應スルモノナリ之ヲ約言スレ
 ハ公權官吏ノ身體ニ對スル所爲ニ因リテ蔑如セラレタ
 ルトキニ非サレハ刑ヲ科セサルモノニシテ若シ官吏其
 執行スヘキ適法ノ職權ヲ濫用シ法律人ヲシテ之ヲ遵奉

セシムルノ利益ナキトキハ之ヲ罰セサルナリ
 職務ヲ表明スヘキ記章ナキトキハ概シテ官吏ニ對スル
 ノ抗拒ヲ許スヘキ乎被告人ハ己レニ害ヲ及ホサル法
 式ノ瑕瑾ヲ唱ヘテ其罪ヲ免カル、ヲ得ス記章ナキニ因
 リ生スル所ノ主タル結果ハ被告人官吏タルコトヲ知ラ
 ス而シテ其暴行タル公權ノ代人ニ對スルモノニ非スト
 ノ利益ナル推測ヲ生スルノミ官ノ記章ハ常ニ人ノ戒嚴
 尊敬ヲ喚起スルカ故ニ其記章ナキトキハ多少官ノ威力
 ナ薄フシ犯人ノ罪惡亦從テ減スルモノナレハ唯酌量ノ
 模様タルニ過キサルナリ云々ト
 右「フォースタン、エリ」氏カ抗命ノ罪ヲ論スル精密妥當亦
 多盡セリトイフヘシ余カ持論敢テ相異ナラサルヲ以テ

爰ニ贅セス

第三條件

官吏其職務ヲ行フニ當リ其命ニ抗スト雖ト
 モ暴行脅迫ヲ以テセサルトキハ本項ノ正面ニ當ラス乃
 チ暴行脅迫ハ本項ニ定メタル罪ノ本體ナリ
 抑官ニハ其命令ヲ執行スルノ權威アリテ公力ヲ以テ之
 チ必施斷行スルヲ得ルカ故ニ人民唯口頭ヲ以テ其執行
 チ拒ムカ如キハ毫モ官吏ノ職務ヲ妨クルノ勢力ヲ有セ
 スト雖モ官吏ノ此限ニ在ラスト暴行脅迫ヲ以テ其剛戾ヲ
 逞フセントスルカ如キハ其情重ク其害大ナリ故ニ此場
 合ニ於テ始メテ本項ニ依リ之ヲ罰スヘシト定メタリ

〔三〕○第二項 本項ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スヘカラサ
 ル事件ヲ爲サシメタル者ノ罪ヲ定ム

官吏ハ其行フヘキ事ヲ行ヒ其行フヘカラサル事ヲ行フ
 へカラス官吏其行フヘキ事ヲ行フヲ得ス又其行フヘカ
 ラサル事ヲ行ハサルヲ得サルトキハ公安ヲ害スル實ニ
 大ナリ故ニ前項ニ於テハ職務ヲ行フヲ妨ケタル者ノ罪
 ナ定メ本項ニ於テハ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハ
 シメタル者ノ罪ヲ定メ而シテ其刑ヲ同フセリ
 本項ノ罪ハ官吏タルコト暴行脅迫ヲ以テスルコトノ二
 元素ヲ要スト雖モ官吏其職務ヲ行フトキナルコトノ一
 元素ハ之ヲ要セス是レ前項ハ職務ヲ行フヲ妨クルノ罪
 ナレハ官吏職務ヲ行フトキナルコトヲ要スルモ本項ノ
 罪ハ官吏ノ爲スヘカラサル事ヲ行ハシムルモノナレハ
 何時タリト雖モ之ヲ行フヲ得ヘク而シテ之ヲ犯スノ時

意
 恒
 妙

ニ因テ其性質ヲ異ニスルノ理ナキカ故ナリ

暴行脅迫ノ點ニ付テハ一ノ難問アリ曰ク官吏抗拒スヘ
 カラサル強制ニ遇ヒ其意ヲ枉テ爲スヘカラサル事件ヲ
 行ヒタルトキハ己レニ責ナシト雖モ若シ其暴行脅迫抗
 拒スヘカラサルモノニ非サルトキハ官吏其責ニ任セサ
 ルヘカラス故ニ本項ノ罪ハ其暴行脅迫抗拒スヘカラサ
 ル場合ノミニ成立スルモノナルヤ否ノ點即チ是レナリ
 此疑團ヲ氷融セント欲セハ宜ク先ツ本項ノ罪ハ官吏其
 爲スヘカラサル事件ヲ行ヒタルトキ始メテ成立スルモ
 ノナル乎將タ官吏ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハ
 シメンカ爲メ暴行脅迫ヲ爲シタルトキ既ニ成立スルモ
 ノナル乎ヲ論決セサルヘカラス本項ニハ云々行ハシメ

暴行脅迫ノ點ニ付テハ一ノ難問アリ曰ク官吏抗拒スヘ
 カラサル強制ニ遇ヒ其意ヲ枉テ爲スヘカラサル事件ヲ
 行ヒタルトキハ己レニ責ナシト雖モ若シ其暴行脅迫抗
 拒スヘカラス故ニ本項ノ罪ハ其暴行脅迫抗拒スヘカラサ
 ル場合ノミニ成立スルモノナルヤ否ノ點即チ是レナリ

タル者トアリ故ニ官吏其爲スヘカラサル事件ヲ行ヒタルトキニ非サレハ本項ノ罪成立セサルナリ然レトモ前項ハ官吏ノ職務ヲ妨ケ之ヲシテ其職務ヲ行フヲ得サラシメタルト否トテ問ハス既ニ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル者ハ之ヲ罰シ本項ハ既ニ暴行脅迫ヲ爲スモ官吏其爲スヘカラサル事件ヲ行ヒタルニ非サレハ之ヲ罰セスト爲スハ前後其權衡ヲ失スルモノ、如シ且單ニ人ヲ脅迫シ若クハ之ニ暴行ヲ加ヘタルト官吏ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメシカ爲メ之ヲ脅迫シ若クハ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタルトハ情狀ノ輕重大小豈日ヲ同フシテ語ルヘケンヤ故ニ官吏其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメテラレタルトキニ非サレハ之ヲ罰セストスルハ恐ク

ハ其當ヲ失セン因テ本項ハ之ヲ改メ官吏ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメシカ爲メ官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ爲シタル者亦同シト定メラレシコトヲ希望ス然レトモ本項改正セラレサル以前ハ官吏其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメラレタルトキニ非サレハ之ヲ罰スルヲ得ス今官吏ヲ脅迫シ若クハ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタルトキ既ニ其罪成立スルモノトセハ其暴行脅迫タル抗拒スヘカラサルモノタルト否トテ問フヘカラスト雖モ官吏ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタルトキ始メテ其罪成立スルモノトセハ官吏抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ已ムヲ得スシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ヒタルトキニ非サレハ本項ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得ス

若シ其官吏ノ行ヒタル事件或ハ罪ヲ組成スルトキハ其
 教唆者トシテ之ヲ罰スヘシ何トナレハ此ノ場合ニ於テ
 ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシ
 メタルニ非ス之ヲ以テ官吏ノ犯罪ヲ教唆シ官吏其教唆
 ニ乗シタルニ過キサレハナリ

本項ニ付テハ尙ホ一ノ疑問アリ本項ノ罪ヲ犯シ官吏本
 項ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタルト
 キハ亦本項ニ依テ之ヲ處斷スヘキ乎ノ點是レナリ甲曰
 ク本項ハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ
 行ハシメ而シテ其事件タル罪ト爲ラサル場合ノミニ適
 用スヘキモノナリ若シ其事件罪タルトキハ則チ其罪ヲ
 以テ論シ本項ニ因テ之ヲ論スヘカラスト乙曰ク本項ニ

ハ單ニ其官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタル者
 トアリ故ニ其事件ノ罪タルト否トチ問フヘカラスト然レ
 トモ其行ヒタル所ノ罪本項ノ罪ヨリ重キ場合ニ於テ仍
 ホ本項ニ依リ之ヲ處斷スルハ理ノ許サ、ル所ナリ故ニ
 此場合ニ於テハ數罪俱發例ニ依リ一ノ重キニ從テ處斷
 スヘシト甲乙論スル所未タ盡サ、ル所アリ甲說ノ本項
 ニ所謂事件ヲ以テ罪ト爲ラサルモノニ限レリト爲スハ
 寔ニ失當ノ妄慮ニシテ乙ノ駁撃ヲ來タス亦固ヨリナリ
 事件ナルノ語其意義豈此ノ如ク狹隘ナランヤ其含蓄ス
 ル所極メテ廣ク罪ト爲ルヘキモノト否トチ問ハサルナ
 リ今又假ニ論壇ヲ讓リ其妄慮ヲ恣ニセシムルモ官吏ヲ
 シテ罪ト爲ラサル事件ヲ行ハシメタル者ハ本項ニ依リ

之ヲ罰シ之ヲシテ本項ノ刑ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ罪ヲ
 犯サシメタル者ハ本項ノ刑ヲ免カレ唯其輕キ刑ヲ受ク
 ルニ止マルカ如キ不權衡ナル結果生出スヘクシテ到底
 其說ヲ維持スルコト能ハサルナリ而シテ乙說ハ實際上
 其平ヲ得ヘシト雖モ此レ唯立法上ノ論ニシテ解法上ノ
 論ニ非サルナリ何トナレハ一箇ノ元素ヲ分テ二箇ノ罪
 ナ組成セシムルヲ得サレハナリ抑本項ノ罪ハ暴行若ク
 ハ脅迫ヲ爲シタルコト、官吏其爲スヘカラサル事件ヲ
 行ヒタルコトヲ要シ又官吏ノ犯シタル罪ノ正犯人トシ
 テ罰セントスルニハ暴行若クハ脅迫ヲ爲シタルコト、
 官吏罪ヲ犯シタルコト、ヲ要ス其要スル所彼此相同シ
 故ニ官吏ノ犯シタル罪ノ正犯人トシテ之ヲ罰スルトキ

此項ノ罪ハ
 官吏ノ犯シタル
 罪ノ正犯人トシ
 テ罰セントスル
 ニハ暴行若クハ
 脅迫ヲ爲シタル
 コトヲ要ス

ハ本項ニ依テ之ヲ罰スルヲ得ス又本項ニ依テ之ヲ罰ス
 ルトキハ官吏ノ犯シタル罪ニ依テ論スルヲ得サルナリ
 故ニ乙說亦從フヘカラス
 然ラハ本件ハ如何ニ之ヲ決スヘキ乎曰ク本項ハ其當ヲ
 得タルモノニ非サルモ今日ニ在テハ官吏ヲシテ行ハシ
 メタル罪本項ノ罪ヨリ重キ場合ト雖モ仍ホ本項ニ依テ
 之ヲ處斷セサルヘカラス然レトモ乙ノ論スル如ク常ニ
 本項ニ因リ處斷スルハ其當ヲ得タルモノニ非サレハ本
 項ハ前ニ開陳シタル如ク之ヲ改正シ而シテ尙ホ之ニ但
 書ヲ設ケ但官吏ノ行ヒタル事件罪ト爲ルヘキトキハ各
 本條ニ照シ重ニ從テ處斷スヘシト定メラレシコトヲ希
 望ス

○佛刑法第二百九條 凡ソ法律官署ノ命令裁判所ノ令狀裁判言渡ノ執行ヲ爲ス公務人田野森林ノ看守人公力者收税吏租税ヲ納メサル者ヲ拘束スヘキ官吏税關吏雙方相争フ物ヲ預ルヘキ官吏行政警察及ヒ司法警察官吏ニ對シ暴行ヲ以テスルノ襲撃抗拒ハ情狀ニ因リ抗命ノ重罪又ハ輕罪ナリトス

同第二百十二條 若シ抗命ノ罪一人若クハ二人ニテ兇器ヲ持シテ犯シタルトキハ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ若シ兇器ヲ持セスシテ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ
〔刑九、四〇〕以下、二一八、
〔治一七九〕

同第二百十八條 凡ソ抗命ノ所爲ノ爲メ單純ナル禁

錮ノ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ犯人ハ尙ホ十六「フ」ラ
ンク以上二百「フ」ラノンク以下ノ罰金ニ處セラルヘシ
〔刑九、四〇〕以下、五二以下、二一一、二一二、
〔治一七九〕

第四百十條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆打シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○本條ハ前條ノ罪ヲ犯スニ因リ官吏ヲ毆傷シタル者ノ罪ヲ定ム

前條ノ罪ハ暴行脅迫ニ成ル故ニ其際官吏ヲ毆傷スルコトナシトセス而シテ前條ノ罪ヲ犯スカ爲メ官吏ヲ毆傷シタル者ハ尋常ノ毆傷者ヨリモ其情疾ムヘク其害大ナリ故ニ本條特ニ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重

キニ從テ處斷スヘシト定メタリ例ヘハ人ヲ毆打創傷シ
 因テ死ニ致シタル者ハ其刑重懲役ニ該ル之ニ一等ヲ加
 フレハ有期徒刑ト爲ル之ヲ前條ノ刑ニ比照スルトキハ
 前條ノ刑輕シ此場合ニ於テ其重キニ從ヒ有期徒刑ニ處
 ス又人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ疾病休業ニ至ラシメ
 タル者ハ其刑一年以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル之ニ一
 等ヲ加フレハ一年三月以上三年九月以下ノ重禁錮ト爲
 ル之ヲ前條ノ刑ニ比照スルトキハ前條ノ刑重シ此場合
 ニ於テハ其重キニ從ヒ四月以上四年以下ノ重禁錮五圓
 以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルノ類ナリ
 或問テ曰ク重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ既ニ犯
 シテ其罪ヲ免カル、爲メ職務ヲ行フ官吏ニ抗拒シ因テ

之ヲ毆傷シタル者ハ如何ニ處分スヘキ乎ト曰ク本條ニ
 毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘトアレハ單ニ一等
 ヲ加ヘタル刑ト第百三十九條ノ刑トヲ比照シ一ノ重キ
 ニ從テ處斷スヘキカ如シト雖モ罪ヲ犯スニ便利ナル爲
 メ又ハ罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆傷シタル者ハ官吏ニ對
 スルニ非スト雖モ仍ホ本刑ニ一等ヲ加フレハ現ニ職務
 ヲ行フ官吏ニ對シ犯シタルトキハ必ス常人ニ對シ犯シ
 タル場合ヨリモ重ク罰セサルヘカラス故ニ本條ニ所謂
 毆打創傷ノ各本件ノ中ニハ第三百三條ヲモ包含スルモ
 ノト解シ本件ノ場合ニ於テハ第三百三條ニ依リ一等ヲ
 加ヘ尙ホ本條ニ依リ一等ヲ加フヘキナリ

佛刑法第二百九條 前條ニ全
 文ヲ掲ク

同第二百十六條 官命ニ抗スルノ當時之ニ乘シテ重

罪輕罪ヲ犯シタル者ハ其各罪ニ對シ言渡スヘキ刑

抗命ノ刑ヨリ重キトキハ其重キ刑ニ處セラレヘシ

(刑)二一〇以下、

同第二百十八條

前條ニ全文ヲ掲ケ

第四百四十一條

官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○官吏ニ文書圖畫ヲ示シ又ハ其面前

ニ於テ文書ヲ朗讀シタル者ハ如何○官吏ノ目前

ニ非スシテ之ニ文書圖畫ヲ送リタル者ハ如何

三 第二項ノ解○筆記シタル文書圖畫ヲ以テ侮辱シ

タル者ハ如何○公然ノ演說トハ何ヲ指ス乎

四 本條ノ罪ハ事實ノ有無ヲ問ハサル乎

(一)○本條ハ官吏ノ職務ニ對シ其官吏ヲ侮辱シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ第三百三十九條ノ罪ト異リテ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨ケ若クハ之ヲシテ其爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタルモノニ非ス然ルニ之ヲ以テ官吏ノ職務ヲ妨害スル罪ノ中ニ列シタルハ其當ヲ得サル

カ如シト雖モ官吏ノ職務ヲ行フニ當リ之ニ抗拒シタル者モ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者モ其罪官吏ニ對スルノ故ヲ以テ之ヲ罰スルニ非ス其所爲公權ヲ蔑如スルカ爲メナリ抑公權ハ人民之ヲ畏敬シ之ニ服従スヘキモノナレハ縱ヒ其所爲相異ナリト雖モ之ヲ蔑如スルハ多少其執行ヲ妨クルモノナリ故ニ官吏侮辱ノ罪ヲ以テ本節ノ中ニ列シタルハ決テ其當ヲ失スルモノニ非サルナリ

〔二〕○第一項 本項ハ官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ノ罪ヲ定ム

本項ノ罪ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク侮辱ヲ受ケタル者ハ官吏ナルコト曰ク官吏ノ職務ニ對シ之ヲ侮辱シ

タルコト曰ク官吏ノ目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テシタルコト是レナリ今逐次之ヲ辨セシ

第一條件 官吏ハ其權限ニ遵ヒ公權ノ一部ヲ行フモノ

官吏ハ其權限ニ遵ヒ公權ノ一部ヲ行フモノ

ナリ故ニ之ニ對スル侮辱ハ暗ニ公權ヲ蔑如スルモノナレハ本項ニ依リ之ヲ罰スヘキモ其官吏ニ非サルトキハ誹毀若クハ罵詈嘲弄ノ各本條ニ依リ之ヲ罰スルノミ本項ノ關知スル所ニアラサルナリ

第二條件 本項ノ罪ハ職トシテ公權ヲ蔑如スルニ由ル

故ニ官吏職務ヲ行フ當時ニ在テ侮辱セラレタルカ又ハ

其職務ニ付キ侮辱セラレタルトキニ非サレハ本項ニ依リ之ヲ處斷セス

官吏ニ對シ其職務ニ付キ侮辱ヲ爲スハ直接ニ公權ヲ蔑

如スルモノナリ故ニ其侮辱官吏職務ヲ行フ當時ニ在ルト否トキ問ハス本項ニ依リ之ヲ處斷スヘシ又官吏職務ヲ行フ當時ニ在テハ假ヒ其事タル職務ニ關係セスト雖モ仍ホ本項ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラス斯ク説キ來レハ世間或ハ曰ハン本項ニハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者トアリ故ニ現ニ職務ヲ行フ官吏ヲ侮辱シタリト雖モ事其職務ニ關係ヲ有セサルトキハ本項ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルヘシト或ハ然ラン然レトモ未タ余ノ感服スル能ハサル所ナリ抑官吏ハ其職務ヲ行フノ當時ニ在テハ則チ公權ノ代人ナリ公權ノ代人ニ對シ之ヲ侮辱シタルトキハ假ヒ事其職務ニ關係ナシト雖モ其結果必ス公權ヲ蔑如スルニ至ル公權ヲ蔑如スル是レ即チ官吏

ノ職務ニ對スル侮辱ナリ加之此場合ニ於テハ多少必ス直接或ハ間接ニ其職務ニ關係ヲ有スルヤ疑ヲ容レズ試ニ見ヨ官吏職務ヲ行フノ當時之ニ向テ馬鹿或ハ阿房ト呼フ者アラハ其言タル官吏ノ一身上ニ止マリ其職務ニ關係ヲ及ホサ、ルカ如シト雖モ亦間接ニ其職務ニ對スルノ侮辱タルヲ免カレス蓋シ職務ヲ行フノ當時ハ身公權ノ代人ナレハ之ニ對スル侮辱ハ即チ公權ニ對スル侮辱ナレハナリ

第三條件 官吏ノ職務ニ對シ之ヲ侮辱シタリト雖モ而モ其目前ニ非サルトキハ本項ノ正面ニ當ラス刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演説ヲ以テ之ヲ侮辱シタルトキハ次項ニ依リ之ヲ罰スヘキモ然ラサルトキハ之ヲ罰スルヲ

得サルナリ

○或問テ曰ク官吏ノ目前ニ於テ侮辱ノ言詞ヲ記載シタル文書或ハ圖畫ヲ示シ若クハ其文書ヲ朗讀シタルトキハ如何ト甲曰ク圖畫ヲ示シタルハ勿論文書ヲ示シタルハ之ヲ言語トイフヲ得ス然レトモ文書ハ一ノ形容ナレハ形容ヲ以テ侮辱シタルモノトシテ之ヲ罰スヘシ又文書ヲ朗讀シタルトキハ言語ヲ以テ侮辱シタルモノトシテ之ヲ罰スヘシト乙曰ク文書ヲ示シタルトキモ亦之ヲ言語ヲ以テ侮辱シタルモノトシテ罰スヘシ何トナレハ文書ハ言語ヲ寫スモノナレハ之ヲ以テ一ノ形容ナリトスルヲ得ス且文書ヲ示シタルハ言ヲ發シタルト同一ナレハナリト余ハ乙説ヲ是トセン何トナレハ形容トハ陽

ニ其意ヲ示サス暗ニ其意ヲ偶スルノ所爲ニシテ書面ノ如ク陽ニ其意ヲ示スモノニ非サレハナリ然レトモ刑法ハ舊慣古例ニ依リ且條理ヲ以テ之ヲ補フヲ得ス又比附援引スルヲ許サレハ書面ヲ示シタルヲ以テ言語ト看倣シ之ヲ罰スルハ少ク其嫌ナキ能ハス故ニ立法官ニ於テ速ニ書面ヲ以テ侮辱スルノ一目ヲ設ケラレシコトヲ希望ス

○或問テ曰ク然ラハ官吏ノ目前ニ非スシテ之ニ文書圖畫ヲ送致シタル者ハ如何ト曰ク本項ニハ官吏ノ目前云々トアリ故ニ之ニ文書圖畫ヲ送致シタリト雖モ其目前ニ非サルトキハ本項ニ依リ之ヲ罰スルヲ得ス或ハ之ヲ官吏ノ目前ニ於テ侮辱シタルモノト看倣シテ罰スヘシ

ト云フ者アレトモ是レ全ク刑法ヲ解釋スルノ法ヲ誤リ
 タルニ坐スルモノニシテ敢テ耳ヲ傾クルニ足ラス余ハ
 官吏ニ文書圖書ヲ送致シタル者ハ其目前ニ於テ之ヲ侮
 辱シタル者ノ如ク其害大ナラサレハ少ク罰スルヲ要セ
 スト思考スト雖モ若シ之ヲ罰スヘシトセハ必ス明カニ
 其旨ヲ定メサルヘカラサルナリ

〔三〕○第二項 本項ハ目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又
 ハ公然ノ演説ヲ以テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ノ
 罪ヲ定ム

前項ノ罪ハ官吏ノ目前ニ於テ行フヲ必要トスト雖モ本
 項ノ罪ハ其目前ニ於テ行フヲ必要トセス蓋シ刊行ノ文
 書圖書又ハ公然ノ演説ヲ以テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シ

タルトキハ官吏ノ目前ニ於テセスト雖モ其傳播スル所
 極メテ廣ク且永遠ニ涉リテ存スヘキヲ以テ其害大ナリ
 故ニ之ヲ罰スヘシト定メタリ

本項ニ付テハ一ノ注意ヲ要スヘキモノアリ即チ前項ノ
 罪ハ官吏ノ目前ニ於テ行フヲ必要ト爲セハ若シ官吏現
 ニ職務ヲ行フニ當リ之ヲ侮辱シタルトキハ事直接ニ其
 職務ニ關係ヲ有セスト雖モ仍ホ之ヲ罰スヘキコト既ニ
 前項ニ於テ開説セシ所ノ如シ然ルニ本條ノ罪ハ官吏ノ
 目前ニ於テ行フモノニ非サレハ恰モ現ニ職務ヲ行ハサ
 ル官吏ノ面前ニ於テ爲シタル侮辱ト同ク事官吏ノ職務
 ニ直接ノ關係ヲ有スルニ非サレハ本項ニ依リ之ヲ罰ス
 ルヲ得サルナリ

○或問テ曰ク刊行ノ文書圖書トハ印行ノモノ、ミナイ
 ヒ筆記シタル文書圖書ヲ以テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シ
 タル者ノ如キハ之ヲ不問ニ付スヘキ乎ト曰ク此點ニ付
 テハ甲乙丙各說アリ因テ左ニ其大要ヲ掲ケ然ル後之ヲ
 論決スヘシ

甲說 刊行ノ文書圖書トハ強テ印行ノモノ、ミナイ指ス
 モノニ非ス文書圖書ヲ公布スルニハ多クハ之ヲ刊行ス
 ルカ故ニ本項ニ刊行ノ語ヲ記入シタリト雖モ若シ之ヲ
 刊行セズシテ唯之ヲ筆記シ世ニ公ケニ爲シタル者ハ仍
 ホ本項ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラス若シ然ラスンハ
 張札ヲ爲シタル者ノ如キ又數百枚ノ文書ヲ筆記シ之ヲ
 公衆ニ頒チタル者ノ如キ皆ナ其刑ヲ免カル、ニ至ルヘ

シ此ノ如キ理ハ決テ之レナカルヘシト
 乙說 刊行トハ印行ノ意ナレハ之ニ筆記シタル文書圖
 畫ヲ包含セシムルヲ得ズ故ニ筆記シタル圖書ヲ公布シ
 タル者ハ之ヲ罰スルヲ得スト雖モ筆記シタル文書ヲ公
 布シタル者ハ公然演說ヲ爲シタル者トシテ之ヲ罰スヘ
 シ抑文書ハ言語ノ形跡ナリ言語ト文書トハ唯一ハ其形
 體ヲ有シ一ハ之ヲ有セサルノ差アルノミ其實全ク相同
 シ故ニ張札ヲ爲シタル者ノ如キ又筆記シタル文書ヲ公
 布シタル者ノ如キ言語ニ代フルニ文書ヲ以テシタルモ
 ノナレハ公然ノ演說ヲ以テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタ
 ル者トシテ之ヲ罰スルモ敢テ不當ノ處分ニ非スト
 丙說 刊行ノ文書圖書トハ印行ノモノ、ミナイ故ニ

裁判行の二コトの不^レ正^ニ揚^ルコト^ハ身^ノ得^ルコト^ハ罪^ノ重^クスル^ル由^リ 358 罪^ノ重^クスル^ル由^リ 一六八

其中ニ筆記シタル文書圖書ヲ包含セシムルヲ得サルノ
ミナラス文書ヲ以テ言語ト看做スノ説モ亦之ニ從フヲ
得ス何トナレハ文書ト言語トヲシテ同一ナラシメハ本
項ニ刊行ノ文書ノ語ヲ記入スルニ及ハサルヘケレハナ
リ然レトモ筆記シタル文書圖書ヲ以テ官吏ヲ侮辱シタ
ル者必スシモ無罪タルニ非ス其事誹毀ニ涉ルトキハ則
チ第三百五十八條ニ依リ之ヲ處斷スヘキナリト
今此三説ヲ觀下シ來ルニ甲説ハ立法上能ク其當ヲ得タ
リト雖モ決テ解法上ノ議論ニ非ス何トナレハ刑法ハ禁
令ノ二法ヲ定ムルモノナレハ必ス明カニ其禁シ其令ス
ル所ヲ記載シ以テ人民ヲシテ其行フヲ得ル事ト否ト又
其行ハサルヲ得サル事ト否トヲ了知セシメサルヘカラ

ス然ルニ法ニ刊行ノ文書圖書ト記載シナカラテ其精神ハ
筆記シタル文書圖書ヲ以テ官吏ヲ侮辱シタル者ヲモ亦
之ヲ罰スルニ在リトスルハ全ク其當ヲ失スルモノナレ
ハナリ
乙説モ亦從フニ足ラス實ニ文書ハ言語ノ形跡ナリ故ニ
文書ヲ以テ言語ト看做スコト敢テ其理ナキニ非スト雖
モ之ヲ以テ公然ノ演説ト爲スヲ得ス何トナレハ本項ニ
刊行ノ文書ト書シ以テ文書ト演説トヲ別ニシタル以上
ハ演説ノ中ニ筆記シタル文書ヲ包含セシムルヲ得サレ
ハナリ
丙説ハ立法上其當ヲ得タルモノニ非サルモ刑法ハ嚴ニ
比附援引ヲ禁スレハ今日ニ在テハ必ス之ニ從ハサルヘ

百五十八條ニ依リ之ヲ處斷スヘカラスト此說從フヘ
カラス侮辱トハ其意廣シ或ハ誹毀アリ或ハ罵詈嘲弄ア
リ而シテ誹毀モ亦之ヲ官吏ニ加ヘテ侮辱ト爲ルモノア
リ然ラサルモノアリ然リト雖モ誹毀ト侮辱トヲ以テ全
ク其性質ヲ異ニストイフヲ得ス茲ニ例證ヲ舉ケテ以テ
之ヲ辨セン例ヘハ公然ノ演說ヲ以テ誰某ハ賂遺ヲ受ケ
テ偽證シ誰某ヲ陷害シタリトイハ、何人ト雖モ之ヲ誹
毀ナリトセン今公然ノ演說ヲ以テ某裁判官ハ賂遺ヲ受
ケテ誰某ヲ陷害シタリトイハ、何人ト雖モ之ヲ侮辱ナ
リトセン而シテ何レモ賂遺ヲ受ケ人ヲ陷害シタリトイ

カラス或曰ク侮辱ト誹毀トハ其性質自ラ異ナレリ故ニ
本項ニ依リ罰スルヲ得サル者ハ之ヲ不問ニ付スヘシ第
三百五十八條ニ依リ之ヲ處斷スヘカラスト此說從フヘ
カラス侮辱トハ其意廣シ或ハ誹毀アリ或ハ罵詈嘲弄ア
リ而シテ誹毀モ亦之ヲ官吏ニ加ヘテ侮辱ト爲ルモノア
リ然ラサルモノアリ然リト雖モ誹毀ト侮辱トヲ以テ全
ク其性質ヲ異ニストイフヲ得ス茲ニ例證ヲ舉ケテ以テ
之ヲ辨セン例ヘハ公然ノ演說ヲ以テ誰某ハ賂遺ヲ受ケ
テ偽證シ誰某ヲ陷害シタリトイハ、何人ト雖モ之ヲ誹
毀ナリトセン今公然ノ演說ヲ以テ某裁判官ハ賂遺ヲ受
ケテ誰某ヲ陷害シタリトイハ、何人ト雖モ之ヲ侮辱ナ
リトセン而シテ何レモ賂遺ヲ受ケ人ヲ陷害シタリトイ
フニ止マレハ其性質タル全ク同一ナリトス故ニ本條ニ
依リ罰スルヲ得サル侮辱若シ誹毀ニ涉ルトキハ第三百
五十八條ニ依リ之ヲ處斷スヘシト爲スコト敢テ不當ニ
非サルナリ
然レトモ筆記シタル文書圖書ヲ公ケニシ以テ官吏ノ職
務ニ對シ侮辱シタル者ヲ罰スルニ第三百五十八條誹毀
ノ罪ヲ以テスルハ決テ理ニ適セルモノニ非ス故ニ本項
ハ之ヲ改メテ其目前ニ非スト雖モ書類圖書ヲ公布シ雜
劇偶像ヲ作爲シ又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦
同シトセラレシコトヲ希望ス茲ニ雜劇偶像ヲ作爲スル
ノ一目ヲ掲クルヲ必要ト爲スモノハ是レ侮辱ハ誹毀ト
同ク雜劇偶像ヲ以テスルヲ得レハナリ

○或問テ曰ク公然ノ演説トハ如何ナルコトヲ指ス乎ト曰ク公然ノ演説トハ誰レ彼レノ區別ナク廣ク公衆ノ聽聞ヲ許スノ演説ナリヤ否ヤノ論ハ近時ノ一大疑問ト爲リタルモノニシテ其性質如何ハ世人ノ既ニ知ル所ナルヘシト雖モ茲ニ其大要ヲ論スヘシ公然ノ演説トハ私ノ演説ニ對スルノ語ニシテ公衆ノ聽聞ヲ許サ、ル演説ニ對スルノ語ニ非ス公然ノ演説トハ其意廣ク公場ニ於テ爲ス演説トハ其意狭シ即チ公場ニ於テ爲ス演説ハ必ス公然ノ演説ナリト雖モ公然ノ演説ハ必スシモ公場ニ於テ爲ス演説ニ限ラサルナリ例ヘハ茲ニ災禍救濟ノ目的ヲ以テ組織セル一社アリ社員相會合シ其目的上ニ關スル事件ヲ論議スルハ是レ公然ノ演説ニ非ス私ノ演説ナリ然レトモ其集會ノ場所ニ於テ其目的トセサル所ノ官吏ノ職務ニ對スル侮辱ヲ演シタルトキハ是レ私ノ演説ニ非スシテ公然ノ演説ナリ又官ノ處分ニ服セス充分其權利ヲ主張センカ爲メ利害ヲ共ニスル者相會シ互ニ談議諮述スルノ際ニ當リテハ縱ヒ多少官吏ノ惡事醜行ヲ摘發スルモ之ヲ公然ノ演説トイフヲ得ス何トナレハ其相會スル者ノ目的トスル所ハ官ノ處分ノ當否ヲ論議スルニ在レハナリ然レトモ他事ヲ談スルノ目的ヲ以テ衆人相會シタル場所ニ於テ其目的ニ關セサル官吏ノ職務ニ對スル侮辱ニ涉ルコトヲ陳ヘタルトキハ是レ亦公然ノ演説ニシテ私ノ演説ニ非ス又親族ハ分身一體ナリ故ニ互ニ談話スルコトハ公然ノ演説

第百四十一條

ニ非ス然レトモ親族ニ非サル者數人其場ニ參在セシト
 キハ之ヲ公然ノ演説トセサルヘカラサルノ類ナリ之ヲ
 要スルニ三人以上相會シ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル
 トキハ之ヲ目シテ公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタルモノト
 爲シ而シテ其親屬ナルトキ又ハ官ノ處分ノ當否ヲ論議
 センカ爲メ相會シタル者ナルトキ親友知己ニシテ恰モ
 親屬ト同一ノ者ナルトキノ類ハ之ヲ例外ト爲スヘク又
 二人相對スルトキハ之ヲ公然ノ演説トセス若シ公衆ノ
 聽クヲ得ヘキ場所ニ於テ之ヲ爲シタルトキノ類ハ之ヲ
 例外ト爲スヘシ此ノ如クセハ實際恐ラクハ其當ヲ失ス
 ルコトナカルヘシ

〔四〕○或問テ曰ク官吏ノ職務ニ對スル侮辱ハ事實ノ有無ヲ

手
 手
 手

問ハス之ヲ罰スヘキ乎ト曰ク此點ニ付テハ甲乙二説アリ各其趣意ヲ異ニセリ

甲説 第三百五十八條ニ事實ノ有無ヲ問ハサルノ明文アリテ本條ニ其明文ナキカ故ニ本條ノ罪ハ事實ノ有無ヲ問ヒ無實ナルトキノミ之ヲ罰スヘキカ如シト雖モ草案第七十條ヲ削除シタルト元老院會議筆記トニ因レハ事實ノ有無ヲ問ハサルヤ明白ナリ

刑法草案第七十條ニ曰ク文書演説其他ノ方法ヲ以テ官吏ノ職務上ニ於テ不正ノ所爲アリト譏毀シタル者其事實ヲ證明スルヲ能ハサル時ハ三月以上三年以下ノ重禁錮十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但其職務上ニ關セサル事件ニ係ル者ハ第三百九十八條ノ例ニ從フト今

此條ヲ削除シ第四百四十一條ニ廣ク官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ノ罪ヲ定メタル以上ハ事實ノ有無ヲ問ハス侮辱者ヲ罰スルモノト解セサルヘカラサルナリ又元老院會議ノ際某議官ハ第四百四十一條ニ修正ヲ加ヘント欲シタリ其要ニ曰ク當初司法省ノ草案第百六十九條第百七十條ヲ採取シ即チ第百四十一條官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス「文書演說其他ノ方法ヲ以テ官吏ノ職務上ニ於チ不正ノ

所爲アリト讒毀シタル者其事實ヲ證明スルコト能ハサル時ハ三月以上三年以下ノ重禁錮十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但其職務上ニ關セサル事件ニ係ル者ハ第三百九十八條ノ例ニ從フト爲サント欲ス本案ハ其目前モ目前ニ非サルモ同一ニシテ區別ナシ司法省ノ草案ハ其目前ト非目前トノ區別アリテ權衡宜キヲ得タリ又第四百二十二條ヲ追加スルノ理由ハ總テ官吏ノ職務上ニ付テハ其事實ヲ證明スルノ精神ナリ然ルニ現行讒謗律ニハ其事實ノ有無ヲ問ハストアリ官吏ハ全國大小ノ政治ニ關係スルモノナリ然レトモ其私事ニ係ルトキハ衆人ト同一視スヘキモ苟モ職務上ノ事ニ於テ事實ニ適當ナレハ其罪ヲ問ハスト爲スハ是レ確乎タル道理ノ存スルモ

ノナリト信ス若シ概シテ有無ヲ問ハスト云ハ、恐クハ人民ノ口ヲ鉗制スルニ至ラン彼ノ英佛ノ如キモ皆ナ事ノ有無ニ因テ論スト聞ク議者或ハ曰ハソ警察官ハ人民ニ代テ告發スヘシ其權ヲ人民ニ與フルニ及ハスト其レ然リ豈其レ然ランヤタトヒ人民ト雖モ官吏ノ果シテ不正ヲ認ムルトキハ直チニ之ヲ論辯スカラストイフノ理アルコトナシ若シ之ヲ抑壓セハ恐クハ人民ヲシテ信服セシムル能ハサルヘシタトヒ此ノ如クスルモ漫ニ論難スル者ハアラサルヘシ若シ之レアリトセハ嚴罰ヲ加フヘシ又有實ナラハ其罪ヲ問ハスシテ可ナラン因テ第四百一十一條並ニ第四百十二條ヲ追加セントスルナリ總テ刑法草案ハ委員ノ數月ヲ閱シテ查定シタルモノナルニ

一朝修正ヲ加ヘハ或ハ恐ル全體ニ關係ヲ生シサルヤト然レトモ本官ノ修正追加ハ最モ精神ヲ注キタルモノニシテ刑法ノ全體ニ關係アルコトナク復タ決テ不權衡ヲ生スルノ憂ナシト信セリ云々ト他二三議官ノ可否論辯アリタル後内閣委員之ニ答辯シテ曰ク原案ヲ主持スル爲メ一應ノ陳述ヲ爲スヘシ某議官ハ司法省草案第七十條ヲ挿入追加セントス是甚タ不可ナリ若シ之ヲ追加セハ社會ノ平安ヲ保全スルコト能ハサルヘシ何トナレハ一般人民ヲシテ官吏職務上ノ行爲若シ其實アリトセハ何ヲ云フモ可ナリトスルノ感ヲ起サシムルヲ以テナリ抑目下人民ノ情態ハ只官吏ノ行爲ヲ新聞紙等ニ載スルヲ好ミ之ヲ誹議スルヲ喜フノ風アリ故ニ若シ論者ノ

如クモハ貴顯官吏ノ行爲ヲ讒謗シタル者アレハ一々之
 ナ裁判ニ付シ其有無ヲ決セサルヲ得サルヘク如此ハ實
 ニ不可言ノ弊害ヲ生セシ夫レ人民ニシテ官吏ノ行爲ニ
 果シテ惡事アリトモハ之ヲ告訴セシムルノ道アリ固ヨ
 リ之ヲ讒謗スルヲ須ヒサルナリ論者外國ニ於テハ之レ
 アリト云フト雖モ此レ僅カニ比耳義佛朗西ノ二國ノミ
 英吉利ノ如キハ官民共ニ同一ナリ若シ修正ノ如クモハ
 官吏ト人民ト相異ナルモノト爲ルニ至ル想フニ二國ノ
 法ノ如キ或ハ惡法トイフモ不可ナカルヘシト追加說少
 數ナルヲ以テ遂ニ消滅セリ是レ明カニ本條ノ精神ヲ示
 スモノナリト

乙) 說 元老院會議筆記ニ依ルトキハ事實ノ有無ヲ問ハ

サルカ如シト雖モ本條ニハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタ
 ル者トアレハ一概ニ事實ノ有無ヲ問ハストスルヲ得ス
 抑官吏ノ職務ヲ行フトハ官吏其職權内ニ屬スル事ヲ行
 フチイフモノニシテ官吏ノ行フ事ハ其職權内ニ屬スル
 ト否トヲ問ハス皆ナ之ヲ職務ナリトスルヲ得ス故ニ本
 條ハ左ノ區別ニ從テ論セサルヘカラス

一 官吏其職務權限ニ從ヒ事ヲ行フニ當リ其職務ノ正
 否ヲ論スルコトナシ唯之ヲ誹毀讒謗シ又ハ罵詈訕弄シ
 タル者ハ事ノ有無ヲ問ハス之ヲ罰スヘシ何トナレハ官
 吏正シ職務ヲ行ヒタルトキハ人民必スシモ之ヲ遵奉ス
 ヘク之ニ對スル侮辱ハ一點ノ失ナキ公權ニ對スルノ侮
 辱ナレハナリ然レトモ官吏職權外ノ事ヲ行ヒタルトキ

此の條は官吏の職務権限に從つて論ぜらるべきであらう。官吏の職務を執行するに當り、その職務の正否を論ずることは、官吏の職務権限に從つて論ぜらるべきであらう。官吏の職務を執行するに當り、その職務の正否を論ずることは、官吏の職務権限に從つて論ぜらるべきであらう。

ハ身公權ノ代人ニ非サレハ本條ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得ス

或ハ檢テ中ニ以テ
終ニ行コレス
然ニニ行コレス
ハハハハハハハハ
ハハハハハハハハ

二 官吏ノ目前ト否トヲ問ハス其職務ノ正否ヲ論スルトキハ其處分果テ職務權限ニ反スルヤ否ヲ審察シ若シ其處分越權タルトキハ之ヲ罰スルヲ得ス何トナレハ官吏其職權外ノ事ヲ行ヒタルトキハ職務ヲ行ヒタリトイフヲ得ス從テ之ニ對スル侮辱ハ官吏一身ニ對スルノ誹毀ニシテ其職務乃テ公權ニ對スルノ侮辱ニ非サレハナリ

右ノ區別タル元老院會議筆記ニ載スル所ニ相反スルト雖モ元老院會議筆記ノ類ハ法文不明了ナルトキ其精神ヲ探究スルノ用ニ供スヘキモ之ヲ以テ法文ヲ變更スル

ヲ得ルモノニ非ス若シ元老院會議筆記ニ從ハソ平何故ニ本條ニ官吏ノ職務ニ對シ云々ト書シタル平之ヲ知ルニ由ナカラソ且第三百三十九條ニ於テハ官吏ニ對スル暴行脅迫ハ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ之ニ抗拒シタルトキニ非サレハ罰セスト爲シ本條ニ於テハ官吏不法ノ處分ヲ爲シタルトキト雖モ其處分不正ヲ鳴ラス者ハ之ヲ罰スヘシト爲スハ前後全ク其權衡ヲ失スルモノナリ故ニ元老院會議ノ如何ニ拘ハラヌ本條ノ明文ニ基キ右ノ區別ヲ設ケサルヘカラス

又内閣委員ノ最モ憂フル所ハ貴顯官吏ノ所爲ヲ讒謗シタルトキ一々其不正ナリヤ否ヲ決セサルヘカラストノ

一事ナリ若シ其レ一處分ノ其理ニ適スルヤ否ヲ判定セサルヘカラストセハ其危険實ニ大ナルヘシト雖モ其處分ノ法律ニ反スルヤ否ヲ決スルハ敢テ困難ナルコトニ非ス且之ヲ決スルモ其害ナク之ヲ決セサルトキハ法律ハ公權ヲ維持セントシテ却テ公權ヲ蔑如スル者ヲ保護スルニ至ルヘシ又事ノ有無ヲ問ハス人ヲ誹毀スル者ハ之ヲ不問ニ措クヘカラストノ說ハ實ニ其理アリ然レトモ官吏其職權外ノ事ヲ行ヒタルトキハ則チ法律上職務ヲ行ヒタルモノト看做スヲ得サレハ唯常人ニ對スルノ誹毀ヲ以テ之ヲ論スヘキナリ

又草案第七十條ヲ削除シタルハ甲說ノ如ク全ク事實ノ有無ヲ問ハシメサルカ爲メニ非ス其無要ナルカ故ナリ

リ何トナレハ本條ニ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ト書シタル以上ハ官吏不法ノ處分ヲ爲シタルニ因リ之ヲ誹毀シタル者ハ職務ニ對スルノ侮辱ニ非サレハ本條ニ依リ之ヲ罰スルヲ得サルヤ明白ナレハナリト

右甲乙論スル所ハ各其理アリ就中乙說ノ如キハ一概ニ事實ノ有無ヲ問フニ非スシテ唯法ニ背キタル處分ヲ爲シタリヤ否ヲ審案スヘシトイフニ在レハ最モ能ク其理ニ適セルモノナリ然レトモ理ノ當否ハ姑ク之ヲ措キ草案第七十條ヲ削除シタルコト、元老院會議筆記トニ因テ之ヲ觀ルニ立法ノ精神タル全ク事ノ有無ヲ問ハスシテ之ヲ罰スルモノ、如シ實際執法官ノ解釋モ亦全ク事實ノ有無ヲ問ハサルナリ

○佛刑法第二百二十二條五月八日百六十三日改正 若シ一名若

クハ數名ノ行政司法ノ官吏又ハ一名若クハ數名ノ

陪審其職務ヲ行フニ當リ若クハ其職務ニ關シ公然

ニ非サル言語文書圖畫ニ因リ其名譽若クハ誠心ヲ

汚辱スヘキ不敬ヲ受ケタルトキハ此不敬ヲ爲シタ

ル者ハ十五日以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

若シ言語ヲ以テスルノ不敬ヲ裁判所又ハ院ノ訟廷

ニ於テ爲シタルトキハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ

處セラルヘシ〔刑〕一七〇、九一八以下、五〇四以下、

同第二百二十三條五月八日百六十三日改正 法官又ハ陪審ニ

對シ其職務ヲ行フニ當リ若クハ其職務ニ關シ形容

若クハ脅迫ヲ以テ不敬ヲ爲シタル者ハ一月以上六

月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ若シ院又ハ裁判所ノ

訟廷ニ於テ不敬ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以

下ノ禁錮ニ處セラルヘシ〔刑〕九、四〇以下、二二六、

同第二百二十四條五月八日百六十三日改正 公務人公力者及

ヒ公務ヲ委セラレタル人民ニ對シ其職務ヲ行フニ

當リ若クハ其職務ニ關シ言語形容又ハ脅迫ヲ以テ

不敬ヲ爲シタル者ハ六日以上一月以下ノ禁錮及ヒ

十六フランク以上二百フランク以下ノ罰金又ハ此

等ノ刑ノ一ニ處セラルヘシ〔刑〕九、四〇以下、五二以下、

〔治〕一七九、

同第二百二十五條五月八日百六十三日改正 前條ニ定メタル

不敬公力者ヲ指揮スル者ニ對シ爲シタルトキハ十

五日以上三月以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ且十六フ
ラノク以上五百フラノク以下ノ罰金ニ處セラルルハ
コトアルヘシ〔刑九、四〇以下、五二以下、二二六、
治一七九〕

同第二百二十六條五月八日改三年 第二百二十二條

第二百二十三條及ヒ第二百二十五條ノ場合ニ於テ

ハ不敬ヲ爲シタル者ハ禁錮ノ刑ノ外ニ若クハ第一

ノ訟廷ニ於テ若クハ書面ヲ以テ損害ヲ填補スヘキ

ノ言渡ヲ受クルコトアルヘシ且其禁錮期限ハ填補

ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算スヘシ

同第二百二十七條五月八日改三年 第二百二十四條

ノ場合ニ於テハ不敬ヲ爲シタル者ハ罰金ノ外ニ被

害者ニ對シ賠償スヘキノ言渡ヲ受クルコトアルヘ

シ若シ之ヲ怠リ若クハ之ヲ肯セサルトキハ其身體

ヲ拘束セラルヘシ

○

附言

佛朗西刑法第三編第三章第四款第一節及ヒ第二節ハ

兇徒聚衆ノ罪及ヒ官吏ノ職務ヲ妨害スル罪ニ關係ヲ

有スルモノナレハ左ニ其全文ヲ譯載ス

第二百九條 第百三十九條
ニ全文ヲ掲ク

第二百十條 若シ二十人以上ニテ兵器ヲ携ヘ犯シタ

ルトキハ有期ノ徒刑ニ處セララルヘシ若シ兵器ヲ携

ヘサルトキハ禁獄ニ處セララルヘシ〔刑七、一五、一六、二

三、四、三六、四
七、一〇、三一、六四

附言

第二百一十一條 若シ三人以上二十人以下ニテ兵器ヲ

携へ抗命ノ罪ヲ犯シタルトキハ其刑禁獄タルヘシ

若シ兵器ヲ携へサルトキハ其刑六月以上二年以下

ノ禁錮タルヘシ〔刑〕七、九、以下、四一、以下、二八、以下、三四、三六、

第二百一十二條 第二百三十九條ニ全文ヲ掲ケリ

第二百一十三條 「バンド」多人数又ハ「アトルーパーマン」少

数ノヲ爲シテ官命ニ抗シタル場合ニ於テハ黨中ニ

在テ職務ヲ行ハス官ノ最初ノ告戒ニ因リ退散シ又

ハ告戒後ト雖モ抗命ノ場所外ニ於テ更ニ抗拒スル

コトナシ且兵器ヲ携へスシテ逮捕セラレタル抗命

犯人ニハ此法典第百條ヲ適用スヘシ〔刑〕一〇、千八

十月十八日附ノ法、千八百四、

第二百一十四條 凡ソ重罪輕罪ヲ犯スガ爲メノ黨ハ其

中ノ一名又ハ数名陽ニ兵器ヲ携へタルトキハ之ヲ

兵器ヲ携へタル黨ト看做ス〔刑〕一五以下、二

第二百一十五條 暗ニ兵器ヲ携へ兵器ヲ携へタルモノ

ト看做スヘカラサル黨中ニ加ハリタル者ハ其者ノ

ミ兵器ヲ携へタル黨中ニ加ハリタル如ク罰セラレ

ヘシ〔刑〕一〇以下、二

第二百一十六條 抗命ノ際抗命ニ關シテ犯シタル重罪

輕罪ノ犯人ハ若シ其各罪ニ付キ定メタル刑抗命罪

ノ刑ヨリモ重キトキハ其刑ニ處セラレヘシ〔刑〕二一

第二百一十七條 千八百二十九年五月十七日附ノ

第二百一十八條 第二百三十九條ニ全文ヲ掲ケ

第二百十九條 一 工業場製造所ノ職工又ハ雇夫

二 貧院ニ入リタル者

三 未決囚既決囚

右等ノ者兵器ヲ携ヘ若クハ之ヲ携ヘスシテ黨ヲ結
ヒ行政官署警察官吏又ハ公力者ニ對シ暴行脅迫ヲ
爲シタルトキハ官命ニ抗スルノ黨トシテ罰セラル
ヘシ 〔刑二〕
〔治六〕 一〇以下、二二〇以下、四一五以下、

第二百二十條 他ノ重罪輕罪ノ爲メ公訴セラレ又ハ
刑ノ言渡ヲ受ケタル囚人ハ左ノ如ク抗命罪ノ爲メ
當行スヘキ刑ヲ受クヘシ

其勾留ノ原因タル重罪輕罪ノ爲メ死刑又ハ無期刑
ニ非サル刑ニ處セラレタル者ハ其刑期ノ終リシ後

直チニ之ヲ受クヘシ

他ノ者ハ其爲メニ勾留セラレタル所爲ニ付キ無罪

又ハ免訴ノ終審裁判言渡後直チニ之ヲ受クヘシ 〔刑二〕

〔治一〕 三九、三五八、三六一、三六四、三六五、六一四、

第二百二十二條 〔全百文四十一條〕

第二百二十三條 同上

第二百二十四條 同上

第二百二十五條 同上

第二百二十六條 同上

第二百二十七條 同上

第二百二十八條 五月八日改正 凡ソ兵器ヲ携ヘス

且傷ヲ爲サスト雖モ職務ヲ行フニ當リ又ハ職務ニ

關シテ法官ヲ毆打シタル者又ハ之ニ對シ其他ノ暴行ヲ爲シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

若シ院又ハ裁判所ノ訟廷ニ於テ暴行ヲ爲シタルトキハ必ス其刑ノ長期ヲ言渡スヘシ

前二箇ノ場合ニ於テ犯人ハ尙ホ其刑ヲ終リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條ニ定メタル權利ヲ剝奪セラル、コトアルヘク且同一ノ期限間監視ニ付セラル、コトアルヘシ刑九、四四〇以下、二二九

第二百二十九條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ犯人ハ尙ホ五年以上十年以下ノ時間法官所在ノ地

ノ周圍二「ミリヤメートル」以内ノ地ヲ離ルヘキノ言渡ヲ受クルコトアルヘシ

此規則ハ犯人其刑ヲ受ケ終リタル日ヨリ之ヲ執行スヘシ

犯人定期内ニ此命令ニ背キタルトキハ追放ノ刑ニ處セラルヘシ刑八、二八、三二、四八、三六、

第二百三十條五月十八日改正公務人公力者又ハ公

務ヲ任セラルタル國民ニ對シ其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務ニ關シテ第二百二十八條ニ定メタル種類ノ暴行ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ禁錮及ヒ十六「フランク」以上五百「フランク」以下ノ罰金ニ處セラルヘシ刑九、一七一、四〇以下、五二以下、二三一以

